日本財団
THE NIPPON FOUNDATION

日中未来共創プロジェクト

20 YEARS

公益財団法人
日本科学協会

日中未来共創プロジェクト

創立 20 周年

CONTENTS

04 ご挨拶
日本科学協会会長 大島美恵子

05 20周年に寄せて
日本財団会長 笹川陽平

06 日中未来共創プロジェクトとは

08 20年の軌跡

10 図書寄贈事業

16 笹川杯全国大学日本知識大会

26 20周年に向けた中国からの寄稿
人民中国雑誌社社長 陳文戈
中国日語教学研究会会長 周異夫

28 笹川杯作文コンクールの足跡

30 笹川杯感知日本作文コンクール

32 笹川杯本を味わい日本を知る作文コンクール

34 笹川杯日本研究論文コンクール

36 Panda杯全日本青年作文コンクール

41 Panda杯訪中プログラム

44 笹川杯訪日プログラム

50 共催・協賛・後援

新たな時代を切り開く
次世代の人材育成

大島美恵子
日本科学協会会長

日本科学協会は、約一世紀にわたって科学知識の普及と若手研究者の研究助成に力を尽くしてきました。また、本会のもう 1 つの柱である日中交流プロジェクトは、2019 年 4 月をもって開始 20 周年を迎えました。

プロジェクトの始まりは図書寄贈です。図書を通じて日本の文化や友好の思いを伝えるため、日本中から善意の図書を募り中国に贈ったのです。初めて海を渡った 2 万冊弱の図書は、10 大学に届けられました。そして、現在、寄贈先は 77 大学、寄贈累計は 383 万冊を超えております。併せて実施している日本知識大会、読書感想文コンクール、作文コンクール、研究論文コンクールは、いずれも斬新な発想のもとに立ち上げた無二の事業ではありましたが、広く認知され多くの参加者を獲得していく中で、屈指の日中交流事業へと成長することができたと自負しております。

社会が大きく変化したこの 20 年、日中関係にも様々な起伏がありましたが、私どもは、如何なる時も民間交流事業を継続・発展させてくることができました。これも事業の助成元である日本財団、共催機関を始めとした日中双方の関係者の皆様の多大なご支援とご協力の賜であり心より御礼申し上げます。

国際交流の鍵となるのは、やはり相手国の言葉が分かる人やその国に関心がある人たちです。このプロジェクトにおいても、そうした若者の国際理解を如何に深めるかがポイントとなっております。しかし、現実には、相手国の言葉が分からない人やその国への関心が余り無い人への関心を喚起することも重要な課題となります。母国語で応募できる作文コンクールを日中両国で行っているのも、こうした観点からです。「千里の行も足下より始まる」の言葉通り、私どもは次世代人材の育成に一から全力を注いできました。

科学が新たな発見を追い求めるとともに、公共の利益になる道筋を探る使命を持っているように、この日中交流プロジェクトにおいては、日中の友好と相互理解を推し進め、日中の将来を担う人材を育成することが責務です。このことは、若手研究者を支援しようという本会の理念に通じるものです。私どもは、目先の成果にとらわれず、日中の新たな時代を切り開く次世代の人材育成をめざし、「日中未来共創プロジェクト」として、変わらぬ活動を続けていきたいと考えております。これからも引き続きご支援、ご協力を賜りますようお願いいたします。

日中の友好に大きな貢献

中国の大学への図書寄贈で始まった日本科学協会の日中友好事業が20 周年を迎えました。日本科学協会の皆さんの努力に敬意を表し、心からお祝い申し上げます。同時に長年にわたり活動を支援下さった日中双方の関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

日本に関する図書寄贈事業は 1999 年に始まり、その後、日本知識大会、日中における作文コンクール、日本研究論文コンクール、さらに日中の成績優秀者をそれぞれ相手国に招聘する事業など着実な広がりを見せています。

この間、図書寄贈事業においては、日本の大学や研究機関、企業、研究者、個人など多方面から提供いただいた 383 万冊に上る日本の図書を中国の 77 大学・研究機関に寄贈しました。また 2004 年に 8 大学が参加して始まった日本知識大会は、近年 100 大学以上が参加する中国でも一、二を争う一大イベントに成長しました。

国と国の関係、とりわけ隣国関係は難しいと言われます。日中関係もこの 20 年間、山あり谷ありでした。しかし、二千年の歴史を振り返れば、世界でも珍しい友好的な関係を維持してきました。両国の友好は北東アジアひいては世界の平和の大きな鍵となります。さらなる努力で安定した未来志向の友好関係を築いて行く必要があります。

日中両国は今後、様々な困難に直面します。例えば両国で進む少子高齢化。これをどう乗り切るか、世界が注目しています。世界に先駆けてこの問題を解決していくには次代を担う若者の知恵こそ必要です。そのためにも若者同士の交流が何よりも大切であり、日本科学協会のような「民」の支援、さらに社会全体の応援や支えが重要となります。

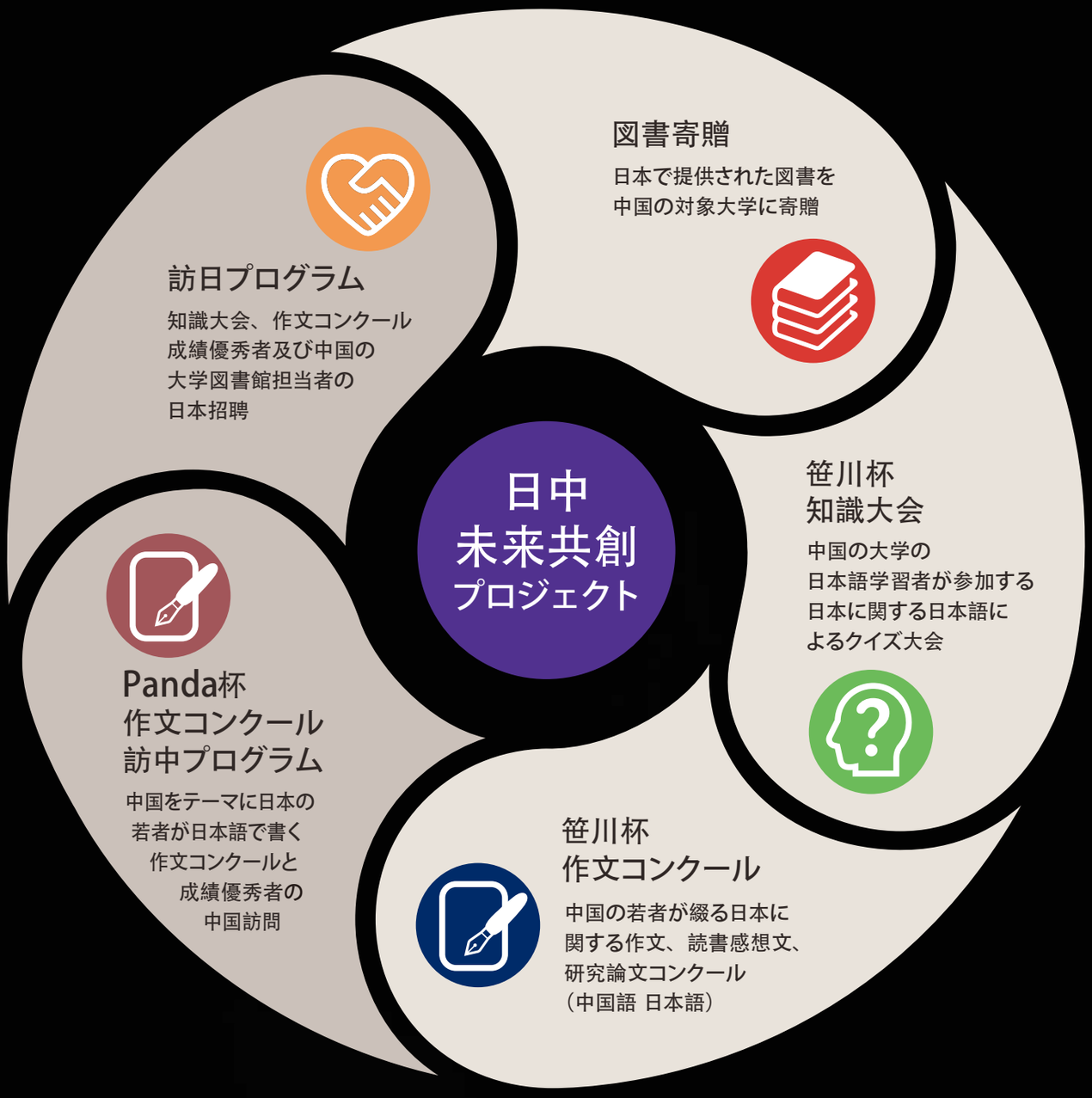
将来を見据え、日本財団は、今後も日本科学協会とともに民間レベルの交流事業を通じて国際社会で活躍できる人材を幅広く育成し、日中関係の発展、さらには世界の平和と安定にささやかでも貢献したいと思います。今後とも一層のご支援、ご協力をよろしくお願い致します。

笹川陽平
日本財団会長

日中未来共創プロジェクトの理念

二十一世紀を見据え、一九九九年に始まった
中国の大学への図書寄贈を端緒として、
国際相互理解の道を一歩ずつ進んでまいりました。
〝日中の安定はアジアの安定、アジアの安定は世界の安定〟と
いう信念の下、
〝知〟による未来の人材育成事業を柱に、深く広く長い交流を
目指して着眼大局で活動してまいります。

日中未来共創プロジェクトの構成



日中未来共創プロジェクト 20年の軌跡

図書寄贈

●1999
対象大学：10大学決定
第1回寄贈19,602冊（10大学）

●2000
寄贈式実施：3大学

●2002
対象追加：3大学

●2003
対象追加：4大学

●2004
寄贈数100万冊突破
（17大学）
南京大学が本協会誌
「採集と飼育」を電子化
寄贈式実施：4大学

●2005
中国到着後の
経費を大学が負担開始
対象追加：7大学
寄贈式実施：3大学

●2006
北部中継開始
南部中継開始

●2007
対象追加：1機関
寄贈式実施：1大学

●2008
寄贈式実施: 6大学
寄贈数200万冊突破（25大学）

●2009
北部
中継終了
対象追加：3大学

笹川杯 知識大会

授賞式（2005年）

●2004
黒竜江省でスタート
日本知識クイズ大会開催

●2005
黒竜江省、華東地域でスタート
2地域で大会開催

●2007
黒竜江省、華東地域、吉林省でスタート
3地域で大会開催

●2008
華東、東北地域でスタート
2地域で大会開催

1999　2000　2001　2002　2003　2004　2005　2006　2007　2008　2009

笹川杯 作文コンクール

授賞式（2009年）

●2008
「感知日本」（中国語版）
（日本語版）スタート

Panda杯 作文コンクール 訪中プログラム

授賞式（2014年）

授賞式（2015年）

訪日プログラム

訪問見学（2015年）

●2001
第1回「大学図書館担当者」招聘
第1回寄贈大学交流会開催

●2002
第2回「大学図書館担当者」
招聘
第2回寄贈大学交流会開催

●2004
第3回「大学図書館担当者」
招聘

●2005
第3回寄贈大学交流会開催
「日本知識大会」
成績優秀者招聘スタート

●2006
第4回「大学図書館担当者」
招聘
第4回寄贈大学交流会開催

●2008
「日本知識大会」「感知日本」
成績優秀者の合同招聘
スタート

本プロジェクトは、1999年度、日本で提供された図書による国際理解の促進を目的に「教育・研究図書有効活用プロジェクト」としてスタートした。

その後、中国においては大学等への図書寄贈に加えて大学生等を対象とした日本知識大会、作文コンクール、読書感想文コンクール、日本研究論文コンクール及びこれらの事業に係る日本招聘、さらに日本においても若者を対象とした作文コンクール及び中国訪問を順次立ち上げるなど、日中双方向の交流事業として多角的な発展を遂げてきた。2018年度には発展に応じて「日中未来共創プロジェクト」と名称変更した。

2019年4月に創立20周年を迎え、9月には長年に亘る日中交流への貢献が評価され、中国外文局優秀パートナー賞を受賞した。

方正輝副局長から大島美恵子会長への授与

●2010
対象追加：1大学

●2012
対象追加：7大学
全国中継開始

●2013
寄贈数300万冊突破（43大学）
対象追加：7大学
寄贈式実施：1大学

●2014
対象追加：7大学
寄贈式実施：7大学

●2015
対象追加：7大学

●2016
対象追加：6大学、1機関

●2017
対象追加：5大学

●2018
南部中継終了
上海交通大学が寄贈業務管理システムを開発
対象追加：6大学
寄贈式実施：2大学

2019
対象追加：2大学
寄贈式実施：3大学
対象大学：77大学

●2010
華東、東北、西南3地域大会
（翌年4月開催）

●2011
全国大学日本知識大会開催（10月）

●2013
全国大会（以降、毎年開催）

●2018
「全国大学
日本知識大会問題集」出版

2019
大会規模約110大学参加

2010　2011　2012　2013　2014　2015　2016　2017　2018　2019

●2010
「感知日本」作品集
第一弾出版

●2012
「感知日本」作品集
第二弾出版

●2013
「感知日本」（中国語版）
見送り

●2016
「本を味わい日本を知る」
（中国語版）スタート

●2018
「日本研究論文」
スタート

2019
「感知日本」
作品集
第三弾出版

「感知日本」（中国語版）
（日本語版）完了

「本を味わい日本を知る」
（日本語版）スタート

●2014
「Panda杯作文」
及び「訪中プログラム」スタート

2019
「Panda杯」
作品集
第一弾出版

●2010
第5回「大学図書館担当者」
招聘

●2014
第5回寄贈大学交流会開催

●2015
第6回「大学図書館担当者」
招聘

●2016
「日本知識大会」「感知日本」
「本を味わい日本を知る」
成績優秀者の
合同招聘スタート

●2018
「日本知識大会」「感知日本」
「本を味わい日本を知る」「日本研究論文」
成績優秀者の合同招聘スタート

2019

図書寄贈事業

図書による日本文化と友好の伝播

図書寄贈によるアジア諸国との相互理解の促進を目的に事業開始した。
寄贈先は、日本語学習者数が世界最多であること、重要な隣国であることなどから中国の大学等に絞っている。
日本の各方面から提供された図書を選定・調整のうえ受贈先の要望に応じて寄贈することにより、
日本理解と友好の深化を、また日本おいても対中関心の喚起を図っている。

寄贈の流れ

収集

日本に対する広範な理解の助けとなる多様な図書を中国に贈るため、メール、手紙、HP、Fax 等を通じて日本の各方面に図書提供・協力を依頼して収集する。

主な提供元
- 出版社● 公共図書館● 研究所
- 大学● 高校● 公益団体
- 公共団体● 企業
- 病院● 博物館● 個人

選定調整

各大学の特長に応じて寄贈図書を選定し、書名、ISBN など内容審査の必須情報を入力した図書リストにより受贈希望を打診し、各回答に応じて寄贈先を決定する。

- リスト作成
- 受贈図書に関する問合せ
- 寄贈先確定
- 内容審査を申請
- 大学毎に仕分け・輸出

輸入中継

図書輸入に際した 3 度に亘る中国側の内容審査を円滑に進めるとともに、各大学への寄贈図書の一括受入、通関手続、各受贈先への配送手配を行う。

- 各大学が直接受贈 …… (1999～2005)
- 南部中継…上海海事大学 (2006～2018)
- 北部中継…大連理工大学 (2006～2013)
- 全国中継…国際贈書中心 (2012～ 現在)

受贈活用

日本の様々な情報を知るための資料として、授業、座談会、ゼミ等で活用している他、日本ブックフェアを開催し日本への親近感を喚起する図書館もある。

- 書誌データ作成・提供
- CALIS (China Academic Library and Information System) に登録
- 新着寄贈図書の周知

調査交流

南京大学（2019 年）

吉林大学（2000年）

貴州大学（2007 年）

遼寧対外経貿学院（2005 年）

寄贈対象77大学

寄贈対象大学決定順と図書寄贈実績累計
（1999年4月～2019年12月）

省・市・自治区	寄贈対象決定順	大学	寄贈冊数
北京市	9	清華大学	69,006
	25	中国社会科学院	6,249
	34	北京大学	2,491
	44	中国伝媒大学	172
	57	中国人民大学	412
	65	中国農業大学	2,490
	64	国際贈書中心	23,573
天津市	35	天津師範大学	35,383
	40	天津外国語大学	2,928
	77	天津科技大学	0
河北省	53	東北大学秦皇島分校	781
内蒙古自治区	29	内蒙古大学	6,634
	66	内蒙古師範大学	1,152
遼寧省	6	中国医科大学	106,448
	1	大連外国語大学	390,061
	16	遼寧師範大学	49,944
	17	大連医科大学	37,766
	20	大連海事大学	87,564
	21	大連理工大学	63,531
	23	遼寧対外経貿学院	25,033
	36	瀋陽師範大学	26,516
	37	渤海大学	88,206
	39	大連民族大学	61,014
	73	東北財経大学	1,500
吉林省	7	延辺大学	139,421
	8	吉林大学	222,189
	11	長春師範大学	132,710
	41	北華大学	5,426
	54	東北師範大学	9,646
	55	東北師範大学人文学院	11,505
	70	吉林外国語大学	1,552
黒竜江省	5	哈爾濱医科大学	58,699
	4	黒竜江大学	151,239
	14	牡丹江医学院	46,134
	15	黒竜江東方学院	181,784
	18	斉斉哈爾大学	73,227
	19	東北林業大学	76,933
	28	鶏西大学	78,759
上海市	10	上海交通大学	76,672
	22	上海海事大学	81,165
	30	華東師範大学	35,298
	43	上海師範大学	7,246
	58	上海外国語大学	35,973
	59	華東理工大学	2,081
	62	復旦大学	1,314

省・市・自治区	寄贈対象決定順	大学	寄贈冊数
江蘇省	2	江南大学	195,749
	3	南京大学	203,692
	74	南京工業大学	7,620
浙江省	12	寧波大学	103,638
	46	浙江越秀外国語学院	35,603
	61	嘉興学院	5,782
安徽省	49	合肥学院	23,090
江西省	51	井岡山大学	17,083
山東省	32	山東大学	11,235
	33	山東大学（威海）	24,622
	42	中国海洋大学	9,903
河南省	48	南陽理工学院	1,296
湖北省	38	黄岡師範学院	3,541
	45	中南財経政法大学	1,934
	50	華中師範大学	59
	52	武漢大学	7,406
湖南省	60	湖南大学	2,938
	72	湖南科技学院	1,503
広東省	56	吉林大学珠海学院	43,335
	71	暨南大学	2,371
広西チワン族自治区	13	広西師範大学	109,799
海南省	76	海南大学	0
重慶市	31	西南政法大学	12,680
	47	四川外国語大学	5,142
貴州省	24	貴州大学	202,767
雲南省	26	雲南大学	182,166
	63	雲南民族大学	1,614
	69	雲南大学滇池学院	301
陝西省	68	西安外国語大学	0
	75	延安大学	13,208
甘粛省	27	蘭州大学	45,537
青海省	67	青海民族大学	609
		その他	43,769
合計			3,837,819

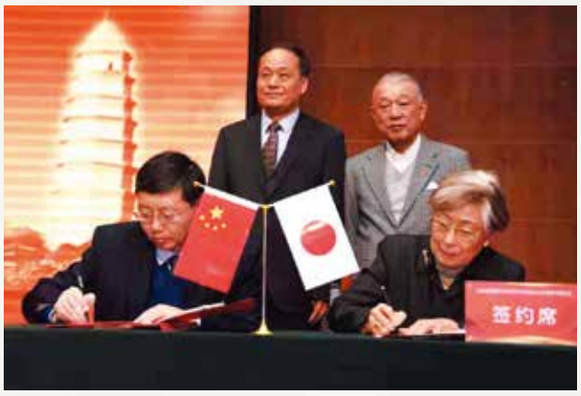
上海交通大学（2000年）

図書寄贈式実施大学

年度	開催場所	実施大学
2000	延辺大学	延辺大学
	吉林大学	吉林大学
	上海交通大学	上海交通大学
2004	中国医科大学	中国医科大学
	黒竜江東方学院	黒竜江大学
		哈爾濱医科大学
		黒竜江東方学院
2005	南京大学	南京大学
		江南大学
		寧波大学
2007	貴州大学	貴州大学
2008	大連外国語学院	大連外国語学院
		遼寧師範大学
		大連医科大学
		大連海事大学
		大連理工大学
		遼寧対外経貿学院
2013	雲南大学	雲南大学
2014	中南財経政法大学	中南財経政法大学
2018	復旦大学	復旦大学
	延安大学	延安大学
2019	内蒙古大学	内蒙古大学
	雲南大学	雲南大学
	北華大学	北華大学

寧波大学（2002 年）

中南財経政法大学（2014年）



延安大学（2018年）

感謝を込めて

初心良已遂　雅志由此見

―日本科学協会の20年の図書寄贈に思いをはせて―

上海交通大学図書館館長
陳進

上海交通大学図書館は 1999 年に始まった図書寄贈事業で、最初に寄贈を受ける 10 館のひとつとなる栄誉を得ました。翌 2000 年には本学で図書寄贈式が開催され、以来、合計 76,672 冊の図書がはるばる海を渡り、古色ただよう C300 特別蔵書閲覧室に所蔵されています。

整然と並んだ茶褐色の桜や樺の木の書架を通り過ぎると、かな文字がひらりと目に入り、富士の雪山、満開の桜と絢爛な日本へ連れて行ってくれます。

日本がはっきりと目の前に現れ、中日の距離は自然と近づき続けていきます。

この 20 年間はまた、相互の理解と友情を深めていく年月でもありました。2011 年には日本財団の尾形武寿理事長と日本科学協会の大島美恵子会長が本学を訪れて、「図書、文化、交流」をテーマに上海交通大学の学生と交流会を開きました。

図書館は定期的に日本語寄贈図書からの選りすぐりをテーマ別に推薦し展示して、外国語学院日本語学科、メディア・デザイン学院などの学部の教育と科学研究を効果的に支援しています。2012 年には「日本文化コーナー」を開設し、襖や畳、屏風やお茶室など、日本の風情を味わえるようにしつらえています。またお礼の気持ちを込めて、図書寄贈の実務を合理化するシステムを設計し、2018 年に日本科学協会に寄贈しました。

上海交通大学は「今の幸福の根源を忘れず、国を愛し大学を繁栄させる」を校訓としています。本学の学生はこれから先ずっと、「日本という国を考えるとき」、必ずその根源を思い出します。中日の情誼は延々と続いて行くことでしょう。

まさに数十年が一日のような継続があってこそ、今の相互の信頼、支持と友情を得られるのです。日本科学協会の深く厚い情誼に感謝しています。書籍は情が豊かな昔なじみのようで、いつまでも親しむことができます。

「氣淑風和」の雰囲気のうちに、より多くの日本の先端技術、文化を代表する書籍や雑誌が中国にやって来て、よりすばらしく多角的な文化交流事業が生まれ、両国民の相互理解がもっと深くなり、中日の情誼が延々と続いて、しっかりと遠くまで、さらに上の段階へ行けますように。

再び中国に

関東国際高等学校
外国語科中国語コース2年
井内英人

この春、新学期を前に部屋の大掃除をした。掃除が終わりかけた頃「あれもお願いね」と、長らく部屋の隅にあった段ボール２箱について母が言った。それは、僕達が、以前、3 年間暮らしていた上海から戻った時に送った船便で、帰国後２年間ずっとそのままにしてあった荷物だ。恐る恐る開けると、中には、僕が昔読んでいた本がぎっしりと入っていた。母の話では、海外では入手しにくいだろうからと、僕や弟が読みそうな日本の本を沢山準備して上海に渡り、帰国が決まった時、日本語に興味を持つ中国人の知り合いに渡してきたが、まだ弟が読みそうな本だけは持ち帰ったのだという。「それなら、これも中国の人に読んでもらえばいいんじゃない？」という弟のひと声で、今回、中国で日本語を勉強する大学生の方々に読んでいただくこととなった。そのような訳で、僕たちの本は再び中国に向かう。次は、この本を読んだ中国の方々に日本に来て欲しいと願っている。

気持ちを高揚させる寄贈図書

大連外国語大学
日本語言語学修士2年
姜夢婷

日本語言語学でよく知られる大連外国語大学大学院に入学し、図書館の日本語の書籍の数が驚くほど多く、種類もそろっていることに気付いて、本当に幸せと感じています。図書館のスタッフによると、日本語図書閲覧室の本の多くは、日本の団体から無償で寄贈されたもので、大連外大の図書館は中国の日本語資料センターとなっているそうです。

また日本語図書閲覧室に入ると、とてもいい雰囲気です。本棚に並んでいる本はほとんど有名な学者によって書かれたもので、先生方からも勧められた本だと気づき、気持ちが高揚します。修士論文のテーマ「中日対照から見る無標受身文」は寄贈図書に啓発されて決めました。

最後に、39 万冊以上もの図書を寄贈してくださった日本のみなさまに心から感謝の意を申し上げたいと思います。これらの書籍をしっかりと利用し、研究能力を向上させてまいります。本当にありがとうございます。

共に中日文化交流の橋を!

国際贈書中心一同

中国教育図書進出口有限公司国際贈書中心、上海海事大学、大連理工大学に続く 3 つ目の中継機関として、日本科学協会から中国の関係先への寄贈図書の、輸入業務と関連サービスを 2012 年から始め、今年で 8 年目になります。

毎年、当方と日本科学協会の担当者が各地に足を運び、図書館の担当者、教員や学生と向かい合って、寄贈先の需要と本の利用状況を把握しています。

寄贈図書リストの受け入れ、書籍の選定、翻訳、審査、輸送などについて、合理的で効率のよいワークフローを一緒に構築してきました。

その結果、寄贈先は当初の 30 大学余りから 77 大学に増えました。

図書寄贈事業が中国の受贈先から歓迎され、高く評価されて好評を博しているのを見るのは喜ばしいことです。20 年が 1 日のように中国の大学や研究機関に無償での図書寄贈を続け、中日の友好交流、文化交流を推進して、相互理解を深められてきたことに心からの感謝を申し上げます。国際贈書中心は、日本科学協会と協力関係を更に強め、図書寄贈を礎にして、共に中日文化交流の橋を架け、友情を深く強固なものにするため、いっそうの貢献ができるよう努めてまいります。

新しい時代の書籍の道

四川大学日本語学部講師
劉凱

「劉先生、来週日本科学協会が調査にやって来ます」

「日本科学協会」の名を耳にした瞬間、脳裏に浮かんだのは大学院生だった頃、清華大学文系図書館の中で日本語の原書を読んでいる光景です。その原書の最初のページにはだいたい青い楕円形の印章が押してあり、「日本科学協会寄贈図書」とありました。日本の文学を学び研究していた自分にとって、それらの原書は学生時代の最も基本的で最も重要な「文献の資源」でした。

時間が過ぎるのは早いもので、今は四川大学日本語学部で教員をしています。四川大学日本語学部には 46 年の歴史があり、多くの優秀な日本語人材を育成してきましたが、日本語の蔵書は中国の中部・東部地域の大学にはるか及びません。調べてみたところ、今ある約 5000 冊の図書は多くが 1990 年代以前に出版されたもので、教育や研究に利用できるものはんのわずかです。この緊迫する課題の解決に図書寄贈という形で支えてくれているのが、日本科学協会です。

数十年が一日のような貢献の沈積によるもので、「感謝」の 2 文字で応えられるものではありません。

岷山は高くそびえ、江水は雄大だと四川大学の校歌にもあります。

中日関係史の長い流れで見ると、遣唐使時代以降、中日の間には千年を越える西から東への「書籍の道」が形成されています。近代には魯迅の世代が、日本を世界の窓として、日本から書籍を買い続けました。この図書寄贈事業に取り組まれている皆さんに感謝を申し上げ、ますますの発展をお祈りしなければと思います。

日本からの寄贈図書との出会い

雲南大学図書館
採用編成部職員
黎英

日本科学協会の図書寄贈大学に 2009 年から加えていただき、図書館で書物の選定から図書目録の翻訳、オンライン目録システムへの入力まで、寄贈図書に関連する業務の全過程に携わっております。日本からの図書寄贈事業は当館にとって、大きな意味と効果を持っています。

具体的には当館が中国の大学図書館の情報資料の共同利用機関である CALIS に加入するきっかけになったこと、これにより当館のデータベース整備が円滑化されたこと、当館の日本に関する紙媒体や電子媒体の資源が充実したこと、さらに本学の学生、教職員がそれらの資源を利用できるようになったこと等です。

寄贈された本を通して、日本文化が利用者に伝わり、たとえ自身が日本へ行かなくとも、文化の香りや雰囲気をうかがい知ることができます。

世界は広いので、自分が日本へ行く機会はとても限られています。明らかに、図書の寄贈はより多くの人が日本を知る道のひとつで、絶えず日本文化を発信して、多角的に日本のイメージを見せることが出来ます。

書物を選ぶためには内容を調べる必要があります。本を一冊ずつ手に取り、頁をめくっていくのは作者と間接的に触れあうようなものです。仕事の中で触れる日本の本が多くなるほど、自分自身の認識も改まり、ますますありがたみを感じています。

図書館スタッフのなかで目録担当は、自分が目録を作成した書籍が読者の前に姿を現し、有効に利用されてこそ、仕事の意義があります。教員や学生の研究や学習に役立ってほしいと期待もしています。ある国の言葉にはその民族の心と魂がこもっています。

この事業のために本を贈ってくださった日本の皆様に心から感謝しています。日本からの寄贈図書と出会ったことで、中日の文化交流に微力ながら貢献でき、とても光栄に思っております。

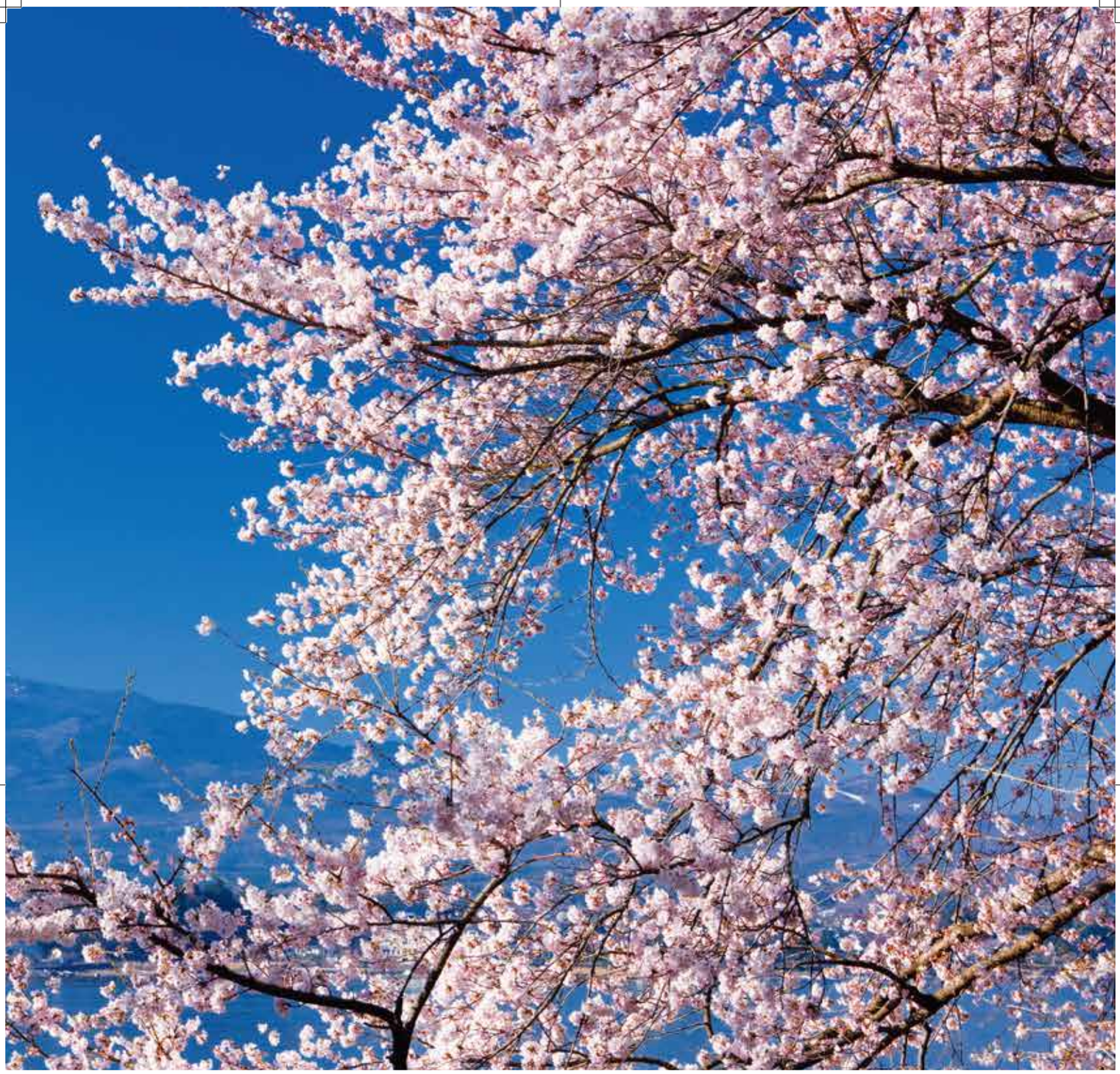
笹川杯全国大学日本知識大会

クイズを通じた日本理解、相互交流

日本科学協会と中国の大学が、日本理解の深化と日本語教育の振興を目的に、2004 年から開催している日本に関するクイズ大会で、2011 年以降、全国規模で開催している。参加大学の日本語学習者が一堂に会し、日本知識や日本語能力を確認するとともに相互交流を深める貴重な機会として、中国の大学の日本語教育界屈指のイベントとなっている。

日本知識大会開催概要

年	2004	2005		2006		2007			2008		2009
開催規模	黒竜江省	黒竜江省	華東地域	黒竜江省	華東地域	黒竜江省	華東地域	吉林省	華東地域	東北地域	華東地域
開催大学	黒竜江東方学院	黒竜江大学	南京大学	黒竜江大学	寧波大学	佳木斯大学	浙江工商大学	長春師範学院	鑑真学院	大連外国語学院	蘇州大学
参加大学数(所)	8	10	9	7	10	8	12	8	16	17	10
団体戦 特等賞	黒竜江大学	哈爾濱医科大学	南京大学	黒竜江大学	寧波大学	佳木斯大学	南京大学	長春師範学院	南京大学	渤海大学	南京大学
個人戦 特等賞							個人戦 ファイナリスト賞 6名		朱暁蘭 （南京大学）	曲璐璐 （大連外国語学院）	劉珏瑶 （蘇州大学）



	2010 2011年4月に延期開催			2011 10月開催	2013	2014	2015	2016	2017	2018
東北地域	華東地域	東北地域	西南地域	全国	全国	全国	全国	全国	全国	全国
黒竜江大学	東華大学	吉林大学	貴州大学	南京大学	中国人民大学	北京大学	吉林大学	武漢大学	上海交通大学	北京大学
19	20	28	10	29	60	89	94	106	116	109
黒竜江大学	山東大学	東北財経大学	貴州大学	蘇州大学	東華大学	洛陽外国語学院	武漢大学	武漢大学	重慶三峡学院	対外経済貿易大学
個人戦 ファイナリスト賞 3名	紀文心 （南京大学）	魏越 （吉林師範大学）	羅莉鴻 （西南大学）	栗碩 （洛陽外国語学院）	谭浩 （中国人民大学）	馬羽潔 （東華大学）	肖子庥 （洛陽外国語学院）	胡益頔 （武漢大学）	王若平 （上海交通大学）	邱碩 （北京大学）

知識から理解へ、理解から友好へ

「全国大会 2018」日本財団尾形武寿理事長（左）と北京大学関維方元党書記（右）が対外経済貿易大学に“笹川杯”を授与（北京大学）

「黒竜江省大会 2004 」授賞式（黒竜江東方学院）

「華東地域大会 2005」会場（南京大学）

「華東地域大会 2006」会場（寧波大学）

「日本知識大会」の思い出

趙仲明
南京大学外国語学院准教授

新型コロナウィルス肺炎の感染拡大が深刻になっている中、日本から救援物質が武漢に届き、段ボールに「山川異域、風月同天」という心に響くねぎらいの文字が見えて話題となった。それは 1300 年前に海を渡って仏教の律宗を日本に伝えた鑑真和上に因んだ話なのだ。日本科学協会交流事業 20 周年の記念文章を作成している今、2008 年に鑑真ゆかりの場所、大明寺・鑑真学院で行われた「華東地域日本知識大会」を思い起している。この大会の仕事に携わっていた私たちにとって、この一回は先達の精神を受け継いでいくことをもっとも象徴できる一回だといえるかもしれない。21 世紀の今日は、鑑真のように嵐の中命がけで文化交流を図ることはもちろんないが、しかし交流の意味は今でも変わっていない。

2004 年より発足して 15 年も続けられたこの大会は、規模も最初の 8 大学から現在最多の 116 大学となったが、本学は上記のほか、2005 年の華東大会と 2011 年・2019 年の全国大会をも主催し、地域規模と全国規模の最初の開催大学でもあった。大会成長のプロセスを振り返ってみれば、少ながらぬ困難のあったことは頭に浮かび上がってくる。大量の質問の作成、盛大なる式典の開催など、イベントの企画に経験のない私たちは、しばしば大きい壁にぶつかることはさることながら、両国の関係や世界情勢の変転に煩わされたりすることも何回かあっ

「全国大会 2018」団体決勝（北京大学）

「全国大会 2019」個人決勝（南京大学）

「華東地域 2011」南京大学張異賓副学長（左）が日本財団尾形武寿理事長（右）に“笹川杯”を返還（東華大学）

た。幸いに日本側の応援や江蘇省からの協力、大学内での関係部署の動員、学生の積極的な参加などを得て、試行錯誤を重ね、主催した回数のすべては成功できた。

当時の参加者遍照仁如さん（鑑真学院）はそのあと大明寺の派遣で日本の大学院に留学し、修士課程を修了して帰国、いまは修行を続けながら鑑真学院で日本語と日本の仏教を教え、日本との交流の仕事を務めている。彼の活躍は大会と直接に関係があるまではいわないが、大会の参加で日本文化との接触によって強く刺激を受け、日本語や日本文化の勉学に勤しむようになって、今日に至ったという、彼の話は言うまでもなく私たちの励みにもなる。

「山川異域」の人との繋がりを持つことによって、これまでにない視点での学びを得る、「風月同天」の人間同士の絆を強めていく。おそらくそれこそ先達の思いであったが、今日の私たちの願いでもある。この知識大会の持つ意味はこのように理解してもよかろうと、私は思う。

「笹川杯全国大学日本知識大会」ルール

1 チーム 3 名の団体戦と各大学チームの代表 1 名が競う個人戦を行う。

団体戦は、個人で解答、チームで解答、早押し問題で予選を戦い、成績の上位 7 大学に主催大学を加えた計 8 チームで優勝を争う。

特等賞の大学と 1 等賞の 2 大学、開催大学、計 12 名が日本に招聘される。

個人戦は、40 分間で 100 問の筆記試験の成績上位 14 名が 2 名ずつ直接対決し、勝った 7 名と主催大学からの 1 名計8名が個人特等賞をめざす。特等賞、1 等賞 2 名、2 等賞 3 名、計 6 名が日本に招聘される。

余興から始まった日本知識大会

「クイズ大会」の始まり

2004 年 6 月、黒竜江大学で行われる「図書寄贈式」の事前打合せで、黒竜江大学の担当者から、式典と併せて実施する余興について、日本に関するクイズ大会はどうかと提案があった。

それまで図書寄贈式の余興と言えば、日本の歌や踊りなどのパフォーマンス中心であったが、クイズ大会なら、日本語学習者が日本語能力や日本に関する知識を試すことの出来る機会ともなる。しかも中国においては、特定の国にテーマを絞ったクイズ大会は他に類がなく、日本への関心を高める、理解を促進するという点からも画期的で効果的なイベントと言える。

こうして 2004 年 9 月、初めての大会が、「笹川杯日本知識クイズ大会」として「図書寄贈式」とともに開催された。

黒竜江省からスタートしたこの大会も、2011 年以降、全国規模に拡充し、毎年、100 大学以上が参加する中国屈指のイベントとなっている。中国には 500 を超える日本語学科設置大学があるといわれるが、延べ 909 大学が参加するこの大会は、中国の大学日本語教育界では最も大きな イベントの一つになっている。

「黒竜江省大会 2004」会場（黒竜江東方学院）

「華東地域大会 2006」日本財団笹川陽平会長挨拶（寧波大学）

「吉林省大会 2007」団体決勝（長春師範学院）

「全国大会 2017」日本科学協会大島美恵子会長（左）が
王若平さんに個人戦特等賞を授与（上海交通大学）

「全国大会 2016」団体決勝（武漢大学）

「西南地域大会 2011」団体決勝（貴州大学）

「全国大会2013」団体決勝（中国人民大学）

「全国大会 2018」北京大学王博副学長挨拶（北京大学）

「全国大会2015」団体決勝（吉林大学）

挑戦!

	予選&準決勝問題	決勝戦問題
1	日本で最初の元号とはどれですか。 A.延喜 B.天暦 C.安和 D.大化	次のうち元年が一番短いのはどれですか? A.明治 B.大正 C.昭和 D.平成　（2017個人戦）
2	日本で乗降客が最も多い駅はどこですか。 A.東京駅 B.梅田駅 C.新宿駅 D.渋谷駅	次のうち日本人がまだ受賞していないノーベル賞はどれですか。 A. 生理学・医学賞 B. 平和賞 C. 化学賞 D. 経済学賞
3	「ホトトギス」と読まない組み合わせはどれですか。 A.不如帰・時鳥 B.子規・郭公 C.乙鳥・玄鳥 D.杜宇・蜀魂	次のうち野間宏の作品はどれですか。 A.『野火』 B.『仮面の告白』 C.『真空地帯』 D.『広場の孤独』　（2017個人戦）
4	日本国憲法に基づき天皇が任命する二つの役職とは「内閣総理大臣」とだれですか。 A.参議院議長 B.衆議院議長 C.宮内庁長官 D.最高裁判所長官	日本で傘が一般的に普及したのはどの時代ですか。 A.室町時代 B.安土桃山時代 C.江戸時代 D.明治時代　（2018団体戦）
5	『ワンピース』でゾロは剣士です。 ○ですか×ですか。	『名探偵コナン』で工藤新一はどの薬を飲んで体が小さくなってしまったでしょう。 A.アポトキシン4869 B.アポトキシン4968 C.アポトキシン4986 D.アポトキシン4698　（2018団体戦）
6	2016年7月に発表された世界企業番付「フォーチュン・グローバル500」で、トップ10にランクインした日本の企業はどれですか。 A.トヨタ自動車 B.日本郵政 C.日本電信電話(NTT) D.三菱UFJフィナンシャル・グループ	後悔することを「後の祭り」と言いますが、この言葉の由来となったお祭りはどれですか。 A.天神祭り B.神田祭り C.祇園祭り D.三社祭り　（2018個人戦）
答え	1D 2C 3C 4D 5○ 6A	1C 2D 3C 4C 5A 6C

特等賞に懸けた日々

頑張ればできる

東北財経大学
日本語学部准教授
蒋雲闘

2010 年 9 月 10 日「教師の日」は、金奉源、樸光、安太紅の学生 3 人と 2010 年「笹川杯日本知識クイズ大会」の東北地域大会へ、長い道のりが始まった日。

毎朝 6:40-7:30 は勧学楼の前で読み合わせ、木曜夜には私の研究室に集まった。「日本の一番」を確認しに、大連外大や市の図書館、領事館の図書センターに何度も通った。目を通した資料や日本各地の手描き地図でフォルダがぱんぱんになった。4 年になった 3 人は就活もあり、資料をかじりながら眠りに落ちた夜がいくつあったことか。

桜が花盛りの季節、我々一行 4 人は遂に長春への列車に乗った。3 人はひどい体調不良になったが、それでも優勝した。私達は抱き合い大泣きした。世界には奇跡など起こらない。ひとつ耕すことにより、得られるひとつの収穫があるだけだ。毎朝あの寒い中、布団から這い出すのはとても辛い信念である。

「珍しい花が開花する」「長春がんばれ」。みんなが励まし、祝福してくれた。笹川杯での優勝は我々 4 人だけではなく、日本語専攻の全ての学生に強力な強心剤となった。

中日友好、川の流れのように、永遠に続く

合肥学院
日本語講師
王重斌

時間が 12 年前の夏休みに戻った。

「王さん、笹川杯日本知識大会に参加したいか？」先生から電話をもらった。「あの知識大会か、大学 4 年の時参加できなかったあの知識大会か」と嬉しかった。それから 3 か月、日本の歴史、文学、芸術などの知識を吸収し、修士論文のテーマも見つけた。激しい競争の中で勝ちとった優勝カップを捧げた時、夢みたいと感じた。

冬休み、日本財団と日本科学協会の招待で日本に 8 日間遊学できた。今でもいろいろはっきり覚えている。人生の宝物になったから。中国に帰る前夜、訪日団のメンバーで「川流会」を作ろうと決めた。「中日の友好が川の流れのように止まることなく、永遠に続く」ようにだ。私は故郷の大学で日本語を教えるようになった。学生に「知日派」になってほしいからで、2018 年の知識大会で本校の学生が個人戦で全国トップ 7 に進むまでになった。中日友好は口にするものではなく、実際に行動しなければならない。

日本語を勉強している学生のみなさん、担っている責任は重いよ。

団体戦の勇者たちへ

対外経済貿易大学
専任講師
寺田昌代

日本知識大会の存在を知らなかった私は、過去問を見て、問題の難しさに、「ウルトラクイズかっ！」と思わずツッコミを入れていました。笹川杯は範囲が広く難問ばかり。私の専門は言語学です。日本語から離れた問題となると素人同然。ことあるごとに「これは問題になるのでは？」とメモを取り、頭の中は“ネタの収集”でいっぱいでした。そこで、まずは選手自身に問題を作成してもらいました。自分で調べ、4つの選択肢も考え、日本語で問題を書く。更に私が作った問題を加え、5か月間で、3人は延べ2000問に及ぶ問題を解き続けました。なんと効率の悪い練習方法だったことか。

初出場で優勝した私たちに、もし必勝法があったなら、それはきっとチームワークです。3 人の選手はそれぞれの担当分野を必死に勉強し、知識を補い合い、励まし合い、個性を生かして優勝をつかみ取ったのです。いろいろ無駄を強いてしまいましたが、決して無意味ではなかったと思います。

学校を出発するとき、私たちは「伝説を作るぞー」と笑いながら北京大学に向かいました。中国各地の大学から「伝説の勇者」が誕生することを心から祈っています。

笹川杯ー夢の力

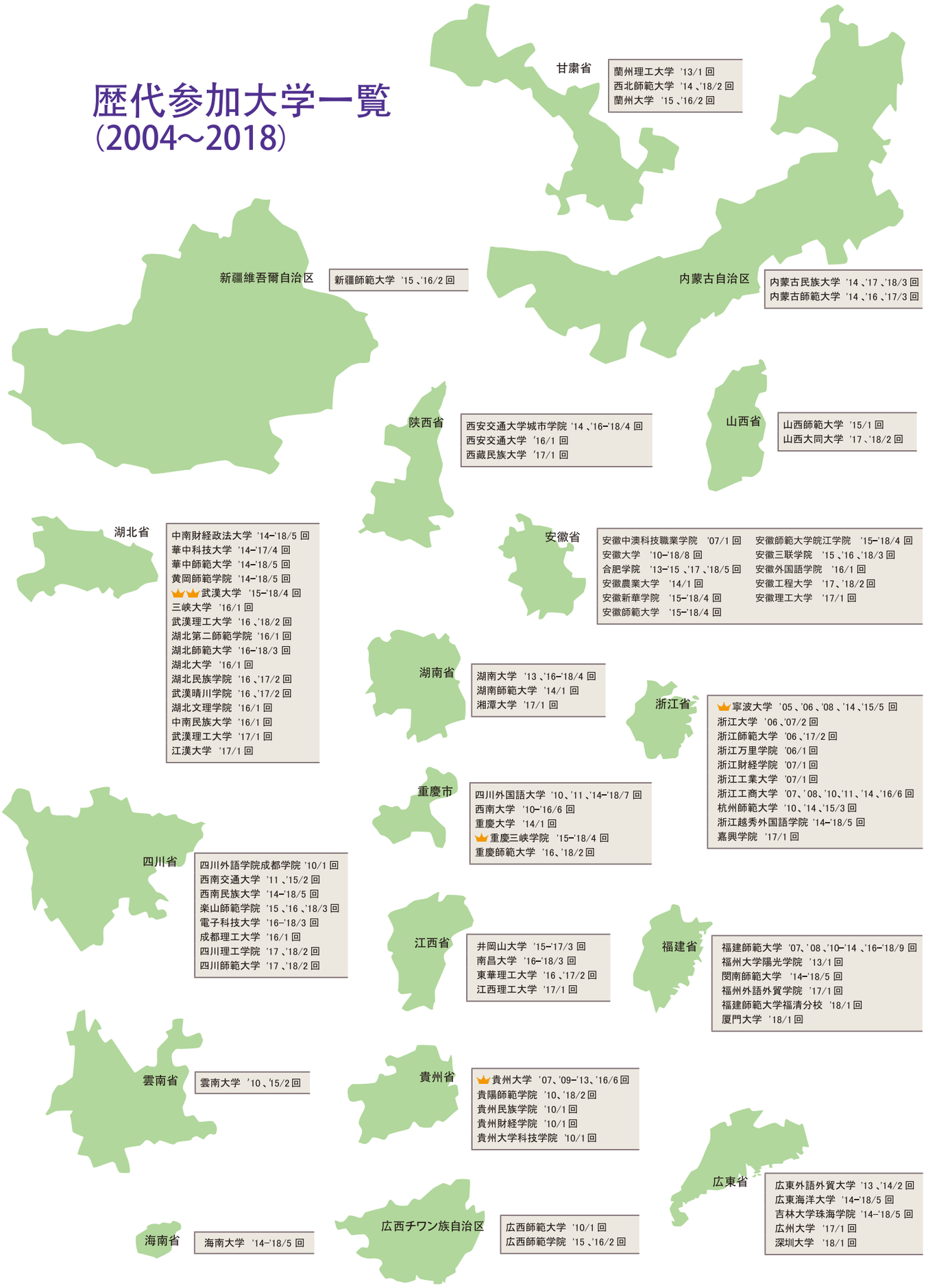
大連外国語大学
修士 1 年
汪逸晨

初めて「笹川杯」に接したのは 2008 年の 9 月か 10 月、大学に入って間もない頃です。決勝戦を見ました。日本語は さっぱり分からないのに本当に面白くて、まるで昔あった李詠の番組「幸運 52」みたいだと感じました。2011 年 4 月 キャンパスで「笹川杯」学習チームのメンバー募集ポスターを見かけました。それ以来、「笹川杯」のことだけで頭が いっぱい。ようやくその年の南京大学での大会に参加の機会を得ましたが、力を発揮しきれませんでした。

それから 1 年半、「笹川杯」は冬休み、春休み、5 月と 10 月の大連休の全部について回りました。5 月に中国人民 大学での大会に出て個人戦で二等賞を獲得するまでずっと続いたのです。

「笹川杯」への道を歩んだこの数年は、一歩ずつ、大きくも小さくもない夢を完成させてきた時間でもあります。「笹川杯」は夢が遥か手の届かないものではないと、夢を信じる力をくれました。決意して物事に向かえば、世界 が道を開いてくれると信じています。

歴代参加大学一覧
(2004～2018)



黒竜江省

- 黒竜江大学 '04-'13、'15、'18/11 回
- 哈爾濱理工大学 '04-'13、'15、'16/11 回
- 東北林業大学 '04-'18/14 回
- 黒竜江東方学院 '04-'06、'08、'09、'15/6 回
- 哈爾濱医科大学 '04-'07、'09/5 回
- 哈爾濱師範大学 '04、'07/2 回
- 哈爾濱工程大学 '04、'05/2 回
- 哈爾濱工業大学 '04-'07、'09、'10、'13/7 回
- 斉斉哈爾大学 '05-'10、'14、'15/8 回
- 鶏西大学 '05、'09/2 回
- 佳木斯大学 '05、'07、'09/3回
- 黒竜江旅游職業技術学院 '09/1 回
- 牡丹江師範学院 '13/1 回

吉林省

- 吉林外国語大学 '07、'10、'13-'18/8 回
- 北華大学 '07、'10、'13-'18/8 回
- 吉林師範大学 '07、'10、'13-'16、'18/7 回
- 長春師範大学 '07、'09、'10、'14、'15/5 回
- 長春大学 '07、'10/2 回
- 通化師範大学 '07、'15/2 回
- 長春税務学院 '07/1 回
- 光華学院 '07/1 回
- 東北師範大学 '08、'09、'15、'18/4 回
- 長春理工大学 '10、'13-'15/4 回
- 吉林化工大学 '10、'13、'15、'18/4 回
- 吉林大学 '10、'15-'18/5 回
- 吉林財経大学 '10/1 回
- 長春工業大学 '10、'15/2 回
- 東北電力大学 '10、'15、'16、'18/4 回
- 延辺大学 '10-'15、'17/6 回
- 吉林師範大学博達学院 '13、'17、'18/3 回
- 長春科技学院 '15-'18/4 回
- 東北師範大学人文学院 '15、'17/2 回
- 吉林建築大学城建学院 '15、'16/2 回

遼寧省

- 大連外国語大学 '08、'09、'11-'15、'17、'18/8 回
- 大連民族大学 '08-'10、'13-'17/8 回
- 大連大学 '08、'10、'13、'15-'18/7 回
- 大連水産学院 '08、'09/2 回
- 瀋陽航空航天大学 '08-'10、'13、'14、'16、'17/7 回
- 渤海大学 '08-'10、'13/4 回
- 遼寧大学 '08、'09、'13、'16/4 回
- 遼寧師範大学 '08-'10、'14、'16、'17/6 回
- 大連理工大学 '08、'10、'14、'16-'18/6 回
- 東北財経大学 '08、'10、'15、'17、'18/5 回
- 遼寧対外経貿学院 '08、'10/2 回
- 大連海事大学 '10、'13、'14、'16、'17/5 回
- 瀋陽師範大学 '10、'14-'18/6 回
- 大連工業大学 '10、'15/2 回
- 東北大学 '14、'16-'18/4 回
- 瀋陽工業大学 '15-'18/4 回
- 大連東軟信息学院 '15/1 回

北京市

- 中央財経大学 '13-'18/6 回
- 北京理工大学 '13-'18/6 回
- 中国人民大学 '13、'14、'16-'18/5 回
- 北京林業大学 '13、'14/2 回
- 北京郵電大学 '13、'14/2 回
- 北京科技大学 '13、'14/2 回
- 北京外国語大学 '13、'14/2 回
- 清華大学 '13、'14/2 回
- 北京第二外国語学院 '13/1 回
- 中央民族大学 '13/1 回
- 首都師範大学 '14-'18/5 回
- 北京大学 '14、'15、'18/3 回
- 北京語言大学 '14、'17、'18/3 回
- 北京師範大学 '14/1 回
- 北京工業大学 '14/1 回
- 外交学院 '15-'17/3 回
- 北方工業大学 '15、'18/2 回
- 対外経済貿易大学 '18/1 回
- 笹川医学奨学生同学会 '13/1 回

天津市

- 南開大学 '13/1 回
- 天津外国語大学濱海外事学院 '13/1 回
- 天津外国語大学 '14-'18/5 回
- 天津科技大学 '14-'18/5 回
- 天津師範大学 '14、'15/2 回
- 天津商業大学宝徳学院 '15-'18/4 回
- 天津財経大学 '18/1 回

山東省

- 山東大学 '07、'08、'10-'15、'17/8 回
- 中国海洋大学 '07-'09、'14、'16-'18/7 回
- 青島理工大学 '10、'11、'14/3 回
- 魯東大学 '14-'18/5 回
- 青島農業大学 '14-'16、'18/4 回
- 山東師範大学 '14、'16/2 回
- 聊城大学 '14、'18/2 回
- 山東工商大学 '14/1 回
- 山東農業大学 '15-'18/4 回
- 山東大学(威海)翻訳学院 '16-'18/3 回

河北省

- 河北聯合大学 '13/1 回
- 河北北方学院 '13/1 回
- 河北師範大学匯華学院 '13、'15-'18/5 回
- 河北経貿大学 '14、'16/2 回
- 河北大学 '14、'15/2 回
- 東北大学秦皇島分校 '14、'15、'18/3 回
- 石家庄学院 '15-'18/4 回

江蘇省

- 南京大学 '05-'18/13 回
- 南京師範大学 '05、'06、'10-'15/7 回
- 南京国際関係学院 '05、'11/2 回
- 三江学院 '05、'06、'09、'10、'13、'15-'18/9 回
- 江南大学 '05、'06、'08-'10、'13-'17/10 回
- 東南大学 '05、'08、'18/3 回
- 揚州大学 '08-'13/5 回
- 蘇州大学 '08-'18/10 回
- 鑑真学院 '08/1 回
- 蘇州科技大学 '09、'11-'18/8 回
- 淮海工学院 '10-'13、'16、'17/5 回
- 南京信息工程大学 '10-'14、'18/5 回
- 江蘇大学 '10/1 回
- 南京大学金陵学院 '11、'17、'18/3 回
- 南京郵電大学 '11、'17、'18/3 回
- 南京工業大学 '11、'14-'18/6 回
- 常熟理工学院 '13、'16、'17/3 回
- 南京航空航天大学 '14-'18/5 回
- 蘇州科技大学天平学院 '17、'18/2 回

上海市

- 上海交通大学 '05、'16-'18/4 回
- 上海海事大学 '05、'06、'08-'18/12 回
- 同済大学 '06、'08、'11、'14-'17/7 回
- 東華大学 '07-'18/11 回
- 上海杉達学院 '07、'17、'18/3 回
- 上海外国語大学 '08、'13-'18/7 回
- 復旦大学 '10、'14/2 回
- 華東師範大学 '10、'14、'17、'18/4 回
- 上海大学 '13/1 回
- 上海師範大学 '14、'17、'18/3 回
- 上海財経大学 '15、'17/2 回
- 上海対外経貿大学 '16、'17/2 回
- 上海建橋学院 '17、'18/2 回
- 上海理工大学 '17/1 回
- 上海海洋大学 '17/1 回
- 上海商学院 '17/1 回
- 上海外国語大学賢達経済人文学院 '17、'18/2 回
- 華東理工大学 '17、'18/2 回
- 華東政法大学 '17、'18/2 回
- 上海電力大学 '18/1 回
- グリーンウェーソーラー・テク(上海)有限公司 '08/1回
- 東華大学日本人留学生チム '10/1 回

河南省

- 洛陽外国語学院 '11、'14-'16/4 回
- 河南理工大学 '13、'15-'18/5 回
- 南陽理工学院 '13-'17/5 回
- 河南大学 '14-'18/5 回
- 南陽師範学院 '14-'18/5 回
- 許昌学院 '14/1 回
- 鄭州昇達経貿管理学院 '16-'18/3 回
- 河南科技大学 '16-'18/3 回
- 河南大学民生学院 '16、'18/2 回
- 黄河科技学院 '16、'18/2 回
- 信息工程大学(洛陽校区) '17、'18/2 回
- 信陽師範学院 '17、'18/2 回
- 洛陽師範大学 '18/1 回

※ 👑：団体戦特等賞受賞回数
※ 2010年地域大会は2011年に延期開催
※ 2012年は大会を開催せず

『日中未来共創プロジェクト20YEARS』刊行に寄せて

陳文戈
人民中国雑誌社社長

日本がちょうど「令和時代」に入る折、日本科学協会の国際交流事業も記念すべき 20 周年を迎えました。日本科学協会はこれまで科学研究の奨励、学術交流の促進、相互理解の増進を主旨として、知日派・知中派とグローバルな人材の育成を目的に、中日交流事業を積極的に展開してきました。この『日中未来共創プロジェクト 20YEARS』は日本科学協会の長年にわたる多くの交流事業と実り多い成果を記録したもので、その刊行を祝うとともに、日本科学協会が中日友好事業のためになされてきた努力に心からの敬意を表させていただきます。

2008 年、人民中国雑誌社、日本科学協会、中国青年 報社が共同で「笹川杯作文コンクール―感知日本」を創設しました。このコンクールは 2012 年に中華全国青年連合会の「中日国民交流友好年」の一連の活動に組み入れられています。十数年来、多くの中国青年が熱心に参加しており、全国から寄せられた投稿の総数は 48,620 本、入賞作品は 200 本、優秀賞作品は 28 本にのぼります。毎年、日本科学協会は優秀賞受賞者を訪日旅行に招待して、日本の青年との友好交流を展開しています。この作文コンクールにより中国青年の日本語学習への興味が 高まり、日本に対する認知が促され、両国の青年間の相互理解と友好的感情も増大しました。

2010 年と 2012 年、中国青年報社、日本科学協会、人民中国雑誌社が共同で優秀作品をとりまとめて編集した『中国青年感知日本』第1集と第2集を出版しました。今年も三者が共同編集し第 3 集を出版する予定です。これらの作品で表現されたすばらしい理想がより多くの両国の国民に知られ、また作文に現れた偽りのない気持ちがより多くの両国の青年に影響して、中日友好事業に身を投じる青年が増えるよう望んでおります。

2014 年、中国駐日本大使館、人民中国雑誌社、日本科学協会が共催で「Panda 杯全日本青年作文コンクール」を開始し、日本の青年が中国を理解する環境の創造に努めています。今年（2019 年)6 月 25 日、習近平主席は G20 大阪サミット出席のため日本へ向かう間際、「Panda 杯」で受賞した日本の青年、中島大地さんに対し、両国の青年が両国関係のすばらしい明日を始めるために積極 的な貢献を行うことを望むと返信しました。習主席の返信は「Panda 杯」を極めて強く肯定し鼓舞するだけでなく、私達主催者にとっての極めて大きい激励と佃撻であり、責任の重大さ、使命の誉れを深く感じさせるものでした。

そのほか、人民中国雑誌社はまた賛助機関として、日本科学協会が中国で催す「笹川杯全国大学日本知識大会」、「笹川杯本を味わい日本を知る作文コンクール」などの中日民間交流活動を積極的に支援しています。上述した活動はいずれも中日交流の一大ブランドとなってきて、私達の「民間の交流促進、民間の友好増進」の初志を実現しています。

民間の友好は中日の友好の基礎です。私達は引き続き日本科学協会と共に努力し、中日の民間交流、特に中日の青年の交流のためにより多くの機会を創造していきたいと願っています。こうした少しずつの努力が春風夏雨のように（良い教育となって）中日の青年の双方向交流を推進し、中日の友好の発展により多くの若い力が注ぎ込まれることを望んでいます。

かねてより人民中国雑誌社と日本科学協会が共催する各中日交流活動を強く支援してくださっている日本財団の尾形武寿理事長に感謝を申し上げます。大島美恵子会長と日本科学協会の皆さんにも感謝しております。共に努力して中日の民間交流をより多彩なものにできるよう望んでいます。

中日民間交流の大きな結実

周異夫
中国日語教学研究会会長
吉林大学外国語学院院長、教授

日本科学協会が設立した「日中未来共創プロジェクト」は 20 周年を迎えた。図書寄贈、日本知識大会と作文や 研究論文コンクールの開催、中日青年の訪日訪中の支援という大きな柱を中心にして展開されている。規模最大、全国で初めてという「一番」を誇るものがほとんどで、いずれも実り多い成果を収め、広く注目されている。この事業は特に中日青年の相互理解と交流の促進、中国の日本語人材育成への貢献が大きく、心より深く感謝を申し上げたい。

中日青年は読書、勉強、あるいはメディアから中国と日本に関する知識を知り、その理解を深くする。さらに、彼らにとって交流の場があることが望ましい。「図書寄贈」「Panda 杯作文コンクール」「笹川杯作文コンクール」「日本知識大会」と「日本研究論文コンクール」はまさに その舞台である。

「図書寄贈」はその出発点であり、この「日中未来共創プロジェクト」の屋台骨でもある。合計３８３万冊にも上る寄贈図書を通じて、それまで日本と縁のなかった者にまで、日本への関心を広め、またその本から何かのヒントを得させたに違いない。

「Panda 杯青年作文コンクール」は日本の若者の中国に対する関心と理解の促進に重要な役割を果たしているが、「笹川杯作文コンクール」は中国の若者を対象に開催されるもので、毎年数千本の日本語または中国語の応募原稿から、若い人の日本の文化などに対する思考や興味を読み取れる。

その中で、一段とレベルの高い視点と研究能力を要するのは「日本研究論文コンクール」である。大学の日本語専攻の学生を対象とするこのコンクールは、将来の中日交流において役割を果たす人材を育成する一助となっている。このコンクールが実行されてから 2 年あまりしか経っていないが、各大学から広く注目され、専門家から高く評価されており、「日本研究論文コンクール」設立の重要な意義を物語っている。

日本語人材育成の目標が、日本に関する知識だけでなく、専攻分野を持ち、一定の研究能力を有することになった現在、日本語の論文作成だけでなく、プレゼンテーションによる研究発表と質疑応答も求められるこのコンクールは、まさに日本語人材育成に大きな改革をもたらしたと言える。

中国の大学における日本語教育の発展に対する貢献というと、「日本知識大会」を取り上げなければならない。全国規模に拡大して以来、100 以上の大学が参加し、日本語学科を設置している大学の間では刮目に値する存在 として、学生の日本理解と学力向上に大きく役立っていると高く評価されている。

そして交流。コンクールの優勝者が日本または中国訪 問に招待され、その国の文化や社会の発展などを肌で感じ、地元の若者と直接に交流し、訪問の感想や将来の 理想などを語り合う。それはいうまでもなく、中日両国の将来を担う若者同士の交流をさらに拡大することになる。このような「日中未来共創プロジェクト」の一つ一つの仕事は、必ずや中日民間交流の大きな結実を見せるだろうと私は強く信じている。いや、実際、その輝かしい成果は、もう見え始めているのではないだろうか。

プロジェクト設立 20 周年に際して、日本科学協会と日本財団の方々、「日中未来共創プロジェクト」関係者の方々に、あらためて敬意を表したい。

笹川杯作文コンクール

足跡

「笹川杯感知日本作文コンクール」は、「日中青少年友好交流年」となる 2008 年、中国の若者の日本への関心喚起、理解促進を図るため、中国青年報社、人民中国雑誌社との共催により開始した。中国で日本に関する作文コンクールと言えば、殆どが日本語によるものであるが、中国語版と日本語版の独立した 2 つのコンクールを併行して実施することにより、日本語学習の有無に関わらず広範な中国の若者（16 歳～ 45 歳）の参加を可能とした。またテーマについては、「感知日本」を普遍のキーワードとしたうえで、日中青年交流、金融危機、環境保護、東日本大震災、福島の原発事故、日中の未来など、時代の変化に沿ったテーマを毎年設定 して中国全土に応募を呼びかけた。

「感知日本」という言い方は、当時の中国においては、「感知美国（アメリカ）」、「感知中国文化」のように好んで使われた流行の表現で、日本を深く掘り下げて感じ取るといった意 味であり、イメージや先入観などに捕らわれず、独自の視点 で日本について考え、感じ取ってほしいという期待を込めたものである。

中国語版の作文コンクールは、中国青年報社とともに「中国青年報」紙・web サイトを通じて、また、日本語版の作文コンクールは、人民中国雑誌社とともに「人民中国」誌・web サイトを通じて募集、審査、作品の公表等を行ってきた。全ての中国の若者に開かれたコンクールであったため、開始から 2012 年までの 5 年間で応募累計は 39,000 点を超える、非常に影響力のある作文コンクールに発展した。日中情勢の影響により、2013 年から 2018 年までは日本語版コンクールの単独実施となったが、2018 年には応募累計は 48,620 点に達した。

更なる充実を求め、中国の非日本語学習者も参加できる事業として、図書寄贈事業との関わりから読書感想文コンクールという発想が生まれ、2016 年に上海交通大学図書館との共催により「本を味わい日本を知る作文コンクール」（中国語による応募）を開始した。このコンクールは全国の大学図書館を経由して実施し、中国語版の「笹川杯感知日本作文コンクール」に代わる事業となった。2019 年以降、「笹川杯本を味わい日本を知る作文コンクール」と名称変更し、中国語版と日本語版の両コンクールを並行実施している。

中国語版
主催　日本科学協会　中国青年報社

笹川杯作文コンクー

募集要項

テーマ等：「私の目から見た中日青年交流」、「私が知っている日本」（2008年）
中国語2000字以内で詩を除く自由形式

応募資格：16～45歳で中国在住の中国国民

一等賞 6名 8日間の日本招聘

二等賞 12名 賞金2000元

2008年度の
一等賞受賞者

李虎

祁金敏

王海瑩

曹雅春

詹俊

趙建軍

中国語版　一等賞受賞者

年度	賞	受賞者	所属	タイトル
2008	一等賞	李虎	農業	中国の一農民から見た日本 一見えざる大きな手に後押しされて
		祁金敏	天津市和平区第五十五中学	忘れ得ぬ張純和の眼差し
		王海瑩	黒竜江省鶴崗市文化局	風に舞うタンポポ
		曹雅春	国家知識産権局	恩に感謝する心
		詹俊	武漢大学	日本から届いた一通の詫び状
		趙建軍	克拉瑪依市第六中学	子供たちと一緒に“品評”する日本
2009	一等賞	葉珠峰	上海理工大学	人生を変えたアニメのワンシーン
		崔海波	鄭州電視台	日本語を学ぶ農民
		常愛涛	信陽師範学院	Kさんと私の教師への夢
		張翮	浙江大学	尺八との縁
		劉玲	信城通数碼科技有限公司	日本の基礎教育に震撼
		王暁	四川省綿陽市公安局	遅れてきた感謝
2010	一等賞	王翔	浙江大学	日本の“けち”と“豪放さ”
		李師荀	信陽師範学院	私とT先生の茶道研究
		陳占彪	上海社科院文学所	日本円に描かれた“文化的英雄”
		王喬	北京市房山区園林緑化局	分類する心
		羅樹郁	中国人民大学	行く手を照らす文化のともしび
		頼麗思	汕頭大学	中日ワークキャンプでの共通点と相違点
2011	一等賞	王丹青	四川大学華西臨床医学院	一つのりんごと一通の手紙
		周毅	網絡公司	フラットな視点で
		王暁霞	汕頭市龍湖区人民法院	良き法は、美徳を養う支えとなる
		譚咏	湖南省新寧県第一中学	日本にも教師の日はある
		李芯儀	海南師範大学	妖怪文化と畏敬の心
		王珂旻	四川師範大学	土の下の尊厳
2012	一等賞	楊超	燕山大学文法学院	葉子さんとの約束
		付饒	中国海洋石油総公司	中国の院士と日本の先生
		袁明漾	寧波日報社	鋭利な刀を捨ててしまわずに
		凌莉	中石化加油站	原子力発電を放棄して、よりよい暮らしを
		劉暁秋	中共南開区委党校	桜の下で微笑む日本の少女
		付昱	南京信息工程大学	菊埼先生

毎年のテーマ＆応募数

中国語版		
年度	テーマ	応募（人）
2008	「私の目から見た中日青年交流」、「私が知っている日本」	6,278
2009	「生活の中の日本のエレメント」、「金融危機と日中協力」	7,208
2010	「中日文化の差異と相互理解」、「環境保護と中日協力」	5,877
2011	「日本 一私があなたに言いたいこと」、「日本の大地震に思うこと」	8,410
2012	「中日交流における感動的なエピソード」、「福島の放射能漏出事故を経て 一原子力発電に思うこと」	5,305
合計		33,078

中日青年交流に対する使命

中国青年報社国際部副主任　高鑫誠

隣人である中国と日本の付き合いは断ち切れないものです。両国の民間での交流、青少年の交流はずっと両国関係の中でとても重要な部分です。中国青年報も青少年を主要な読者とする影響力のあるメディアとして、中日日青少年交流に助力する事業を継続して行ってきました。

その一環で、2008 年から、中国青年報社、日本科学協会、人民中国雑誌社の三者は中国の青年や学生を対象とする作文コンクールを開催しています。このうち、中国青年報国際部が事務局を務めた「笹川杯作文コンクール―感知日本」（中国語版）は 2008 年から合計 5 回開催してきました。作文のテーマは毎年変わりますが、守っている理念はただひとつ、中国の青年や学生の日本に対する理解を深め、中日両国の青年の間の交流を促進することです。

中国では、外国語（日本語を含む）を習得する青年が多くなりつつあるものの、結局中国語が母語です。中国語で創作し表現する作文コンクールは参加できる中国の青年や学生が多く、活動の範囲が広がります。また、参加者がより自由自在に、正しく自身の思いや考えを表現できます。

これまでのコンクール参加者が文章を通して表現してきた考え、あるいは受賞者が訪日して行った交流活動のいずれもが、この中国語での作文コンクールがもたらす効果がとても素晴らしいことを証明しています。応募作品を書くことによって彼らは、見過ごしていたいくつかの日本の側面を発見し、ひいては全体に対する認知を深めることにつながりました。

受賞者は実際に日本を訪れて自分の目で見て回り、日本の同年齢の人たちと交流したことで、日本に対する想いが増し、日本の青年に対する理解も増しました。応募作品や訪日の成果はさまざまな形で各種メディアに紹介されて共有され、さらに多くの青少年の読者にプラスの影響を及ぼしています。この作文コンクールを通じて私達は「中日の青少年交流への支援」という目的を果たしたと言えます。

ルー感知日本

日本語版
主催　日本科学協会　人民中国雑誌社

日本語版		
年度	テーマ	応募者（人）
2008	「日本を感知する」	271
2009	「生活の中の日本のエレメント」、「生活の中の日本の科学技術」	1,698
2010	「中日文化の差異と相互理解」、「私が関心を持つ日本事情」	1,455
2011	「日本の大地震に思うこと」、「日本ー私があなたに言いたいこと」	1,907
2012	「中日交流の中で、感動した人物や出来事について」、「福島の原発事故の後、原子力発電についてどのように考えるか」	778
2013	「中日の未来のために私たちが出来ること」	1,727
2014	「中日関係の行方」	1,879
2015	「民間交流と日中関係」、「アジアの未来と中日関係」	1,416
2016	「中日関係と情報発信」、「中日友好ー若者の視点から」	1,611
2017	「わたしと日本」、「未来の中日関係に向けて」	1,267
2018	「わたしと日本」、「平和と友好　中日関係の原点と未来」	1,533
合計		15,542

募集要項

テーマ等：日本と関係のある話題、感動的なエピソード、日中関係についての個人的な理解・認識など
日本語 2000 字以内で詩を除く自由形式

応募資格：16~45 歳で中国在住の中国国民

優勝賞　2名　8 日間の日本招聘

二等賞　2名　賞金2000元

三等賞　4名　賞金1000元

優秀賞　10名　賞金 500元

2008年度の優勝賞受賞者

万晨

陳一

2018年度の優勝賞受賞者

史春艶

鄭羽揚

王珺

孫斌

日本語版　優勝賞受賞者

年度	賞	受賞者	所属	タイトル
2008	優勝賞	万晨	遼寧師範大学外国語学院	大地震の後、中国での対日観が改善したか?
		陳一	四川大学 生命科学学院	カントリー・ロード
2009	優勝賞	黄満龍	三江学院	人と人のつながり
		程天然	江南大学	日本のイメージ
2010	優勝賞	潘莹	北華大学	私が関心を持つ日本事情
		張雪	長春理工大学	一緒に月に挨拶をしよう
2011	優勝賞	羅紫薇	中南林業科技大学	思いやりの心 —日本の大地震に思うこと
		劉倩	東北大学	日本ー私があなたに言いたいこと 津波被災地の少女への手紙
2012	優勝賞	季佳琳	哈爾濱工業大学	中日交流における感動的なエピソード
		李鈺婧	天津外国語大学	中日交流における感動的なエピソード ー通訳として幸運なデビュー
2013	優勝賞	孫琳	哈爾濱工業大学	中日の未来のために私たちが出来ること
		李翌寧	佳禾外語培訓学校	日本との出会い
2014	優勝賞	曾帥帥	南京郵電大学外国語学院	中日関係の行方
		章嫣嫣	黄岡師範学院	公共マナーと中国人
2015	優勝賞	奚相昀	合肥学院	船
		王喆琦	南京郵電大学	「風立ちぬ、いざ生きめやも」
2016	優勝賞	馮心鶴	北京外国語大学	中日友好ー若者の視点から
		童瑶	浙江農林大学	「微妙」から生まれた絆
		呉氷潔	東華大学	中日関係と情報発信
		張孟傑	湖北民族学院	小さい風でも、海を越えられる
2017	優勝賞	湯依姮	華東師範大学	わたしと日本
		黄俊捷	広東外語外貿大学	未来の中日関係に向けて
		潘東晨	青島大学研究生院	未来の中日関係に向けて
		柏毅洋	海南師範大学	私と日本
2018	優勝賞	史春艶	合肥学院	平和と友好　中日関係の原点と未来 詩吟講習会に思うこと
		鄭羽揚	厦門大学	わたしと日本
		王珺	華中師範大学	わたしと日本
		孫斌	浙江中医薬大学濱江学院	漢方薬から見えた日本の素晴らしさ

2018年「笹川杯作文コンクール—感知日本」で受賞した感想

合肥学院外国語学部日本語科4年
史春艶

今回の受賞で、「努力するほど幸運になる」という言葉が証明されたと思っています。それまでいろいろなコンクールに努力してきましたが手応えがなく、自信をなくしかけていました。ですが今の自分は、少しずつちょっとずつ努力していけば、いつかはすべて報われるのだと信じています。

何もまとまらないうちに応募期限が迫り、作文の内容で途方に暮れていたとき、日本吟道学院の古田先生が再び来校してくださいました。初めて先生にお目にかかったのは二年生のときでした。当時は日本語があまりできなかったのですが、先生の真剣さをひしひしと感じ取ることはできました。並大抵でないご苦労と、中国の学生に対する好意、そして中日の友好に対する期待も分かりました。これこそ、中日の友好に力を尽くした歴史上の人々の気高さを、現代で最も良く理解している姿ではないでしょうか。今の中日関係の友好的な発展には、国境なく交流したり、話し合ったり、文化に触れたりするのは大切だと思います。先生のように、一心に両国の民間交流活動に力を尽くしている方との出会いは初めてです。なので、私はその真剣さを伝えようと思いました。

受賞したことで訪日できたので、東京で古田先生ご夫妻と再会できました。お話しする中で、お二人が何度も中国を訪れ、詩を吟じて中日交流を促進する活動をずっと続けていらっしゃると知りました。別れ際に奥様が、日本の両親だと思っていつでも相談してかまわないと声をかけてくださいました。そのとき、心に温かいものが流れるのを感じ、自分の最大の努力を尽くして中日友好を促進しようと決心し、今は通訳専攻の大学院に通っています。将来は普通の通訳に過ぎないかもしれませんが、中日友好の橋の一部になろうと思っています。

笹川杯本を味わい日本を知る作文コンクール

主催 上海交通大学図書館　日本科学協会

このコンクールは、“ 図書を通じて日本を知って欲しい ” という思いを込めて、2016 年、
中国の大学生等を対象に立ち上げた中国初の日本に関する図書の感想文コンクールである。
多くの若者が参加できるよう、また感想や思いを十分に表現できるよう、中国語による応募としている他、
分野、出版国、使用言語を問わずあらゆる図書を読書対象としている。
中国全土の大学図書館が募集活動と学内審査を経て決定した上位 2 点の推薦作品を対象に、
本コンクールの審査委員会が最終審査を行い受賞作品を決定する。

2016 年度受賞者

一等賞		汪書璇 北京大学法学院商法 修士2年		「『私』としての生活」 （为“我”而生活）		龐昆静 雲南大学 文化発展研究院文化産業 修士1年		「『断捨離』への手紙」 （写给《断舍离》的一封信）
二等賞	胡清元 蘭州大学経済学院3年	「詩のような響き―『ノルウェイの森』の感想」 （听成一首诗 —— 读《挪威的森林》有感）			丛麟懿 蘭州大学歴史文化学院4年	「日本の陪臣についての小論」 （小论日本陪臣）		
	王緒鵬 吉林大学行政学院修士2年	「国民性と民主化：『菊と刀』の政治的解釈」 （国民性与民主化：对《菊与刀》的 —— 种政治学解读）			周 璟 武漢大学信息管理学院2年	「日本の味」 （日本味道）		

上海交通大学HP

井岡山大学HP

雲南大学HP

燕山大学WeChat

吉林外国語大学WeChat

2017 年度受賞者

一等賞		施柯沁 華東師範大学 伝播学院修士2年		「深夜・食の味・小さい世界」 （深夜、食味、小世界）		劉穎慧 東北大学秦皇島分校 語言学院3年		「人間に失格なし」 （人间无失格）
		郝顔 大連海事大学 情報科学技術学院3年		「風の中に音あり、砂の上に印あり」 （风中有音、沙上有印）		崔言 北京大学 対外漢語教育学院博士1年		「海坂藩の土地」 （海坂藩的土地）
		邱舒怡 上海交通大学 安泰管理・管理学院2年		「生命の優雅なる罪と高貴なる過ち―三島由紀夫『春の雪』を読んで」 （生命之优雅的犯禁与高贵的出格—— 读三岛由纪夫《春雪》）				

中南財経政法大学 HP

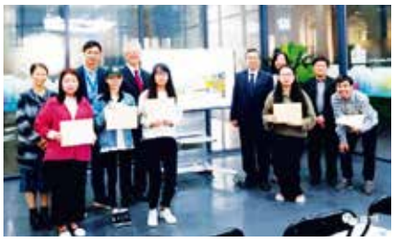
暨南大学 WeChat

二等賞	向臻 華東師範大学物理・材料科学学院２年	「目立たない存在の発見」 （发现不起眼的存在）	呉沁霖 同済大学外国語学院２年	「無邪気な思い」 （思无邪）
	徐紫雲 東北財経大学財政税務学院修士2年	「同情はどこへ行こうというのか」 （哀怜欲往何处去）	楊晴 遼寧師範大学外国語学院２年	「読みながら愛しながら―日本文学を味わう中での心理の変遷」 （边读边爱 —— 日本文学品读）
	庄寓諧 蘇州科技大学外国語学院日本語学科２年	「歳月の流れは惜しまねば」 （光阴荏苒需当惜）	李晓荷 雲南大学民族学と社会学学院１年	「あっさりとして風雅で―『枕草子』を読んでの雑感」 （清淡好风流 —— 读《枕草子》断想）
	王錦輝 天津外国語大学国際傳媒学院 漢言語文学3年	「袋の中に花と月を探して」 （只寻袋里花与月）	呉犇 寧波大学人文学院２年	「少年の破滅と成長」 （少年的破灭和成长）
	謝詩楨 蘭州大学哲学社会学院３年	「扶桑の黄昏」 （扶桑的黄昏）	金卓弘 湖南師範大学新聞と傳播学院3 年	「人生の途中、歩みを止めず」 （人生路上，步履不停）

北京大学WeChat

清華大学WeChat

復旦大学WeChat


大学内授賞式（澳門大学）

2018 年度受賞者

一等賞		**喬暢** 天津外国語大学 国際傳媒学院 3 年		「生命を四季の中で軽やかに舞わせて」 （让生命在四季轻舞）		**王恩澤** 大連海事大学 船舶と海洋工学学院 2 年
		姜昱先 東北師範大学 日本語学科 1 年		「嵐の中でそよ風の存在に耳をかたむける―村上春樹と新世代の日本人の精神世界」（于风暴之中，聆听微风的存在）		**俞奕如** 寧波大学 人文と傳媒学院 3 年
		劉昊昕 山東大学（威海） 計算機科学と情報工学学院 3 年		「世界と抱き合おう―『人間失格』を読んで」 （拥抱世界）		

二等賞	**王宇翔** 香港理工大学紡績と服装学部博士 2 年	「アジアの一体化と岡倉天心」 （亚洲一体化与冈仓天心）	**祁博賢** 中国人民大学哲学院 3 年	「芸術の報復―『地獄変』を読んで」 （艺术的复仇 ――读《地狱变》）
	李書怡 复旦大学法学院 3 年	「文明を語る―日本はなぜ先んじているのか？」 （也谈文明 ――缘何日本赢在了先？）	**劉倩** 上海財経大学人文学院博士 2 年	「明るさと暗さの間で」 （在明亮与黑暗之间）
	李宸玮 南京大学計算機科学と技術学部 3 年	「溝口先生への手紙」 （写给沟口先生的一封信）	**徐可欣** 華東師範大学設計学院 3 年	「こっそり嗅いでみると」 （窥味）
	金世龍 浙江越秀外国語学院西方語言学院 3 年	「本当の教育は尊重だ―黒柳徹子『窓ぎわのトットちゃん』を読んで」 （真正的教育是尊重 ――读黑柳彻子《窗边的小豆豆》有感）	**劉淑钰** 聊城大学文学院 4 年	「漫画で語られる『情』の話」 （动漫里说“情”话）
	張艶 長春光華学院外国語学院 2 年	「『夜市』を読んで」 （读《夜市》有感）	**黄琼瑶** 上海交通大学人文学院博士 1 年	「遠藤周作の文と思い」 （《沉默》背后：远藤周作的写与思）
	肖彩霞 西南石油大学石工院 3 年	「大和、隣にいたいよ」 （大和，愿与你为邻）		

山東大学 WeChat

蘭州大学 WeChat

大連外国語大学 WeChat

東北師範大学 WeChat

湖南師範大学 WeChat

応募呼びかけコーナー（香港理工大学図書館）

武漢大学 WeChat

募集要項	
作文内容	日本に関する書籍を読み、その内容について感想文形式、または論文形式で書く。
言語	中国語1000字～2000字
応募資格	大学生、大学院生、博士課程に在籍する中国人（香港、マカオ地区を含む）
応募方法	各大学図書館で一次審査を行い、2本の推薦作品を決め、コンクール公式HPにて応募する。コンクール公式HPへの学生自身による応募は受け付けない。
一等賞5名は8日間の日本招聘。二等賞10名、団体賞（応募総数が多い上位 5大学）には賞状、賞品が贈られる。	

笹川杯日本研究論文コンクール

主催　中国教育部高等学校外国語言語文学類専業教学指導委員会日語分委員会
中国日語教学研究会　吉林大学　日本科学協会

日本語による論文執筆の機会を提供することにより、日本学に関する問題意識の喚起、
研究実践や論文執筆に関する能力・ノウハウの習得、研究成果発表に係るプレゼン能力の習得、
さらに担当教員の指導能力とモチベーションの向上を図ることを目的として、2018 年に設立された。

【募集要領】

テーマ等：言語学、文学、文化の3分野から自由に設定
日本語5000字程度の論文形式

応募資格：日本語専攻の大学１年生～3年生
個人或いはグループ（3名以内）で執筆

特等賞	上位3組（3分野各1組）、8日間の日本招聘
一等賞	3組（3分野各1組）
二等賞	9組（3分野各3組）
三等賞	15組（3分野各5組）
優秀賞	15組（3分野各5組）

審査基準

- ○ 論文の課題は日本学と密に結び付いた関連の問題で、優れた理論価値と現実的な意義がある。
- ○ 国内外の関連している研究について一定の理解があり、論文の課題に実現可能性がある。
- ○ 論拠が科学的、合理的で、引用の内容は正確で信頼でき、不確定、主観的な推測性の内容がない。
- ○ 研究方法は科学的、論文の構造は合理的、資料のデータは正確、推理は厳密で、分析は正しい。
- ○ 学術研究の概念の説明が明瞭で正確である。
- ○ 内容と綱要が主題に即しており、引用が規範的で、図表の作成などが正確である。
- ○ 日本語の作文の正確性。
- ○ 関連する専門の知識と理論を運用して相応の問題を解決できる優れた研究方法がある。
- ○ 関連する問題について自分の見解または観点がある。

左から教育部日語教学指導分委員会修剛主任、特等賞を受賞した胡楠さん、王紫玉さん、左華芸さん、日本科学協会大島美恵子会長、中国日語教学研究会周異夫会長

2018年の特等賞受賞者

言語 分野

日本語教育における性別語のあり方についての一考察

北京外国語大学日本語学部4年　胡楠

言葉遣いを通じて発話者の性別を判断できるという点は日本語の大きな特徴の一つだと考えられている。通言語的に見れば、このような特徴を持つ言語は世界でも有数である。

そこで本稿では、筆者が行った外国人日本語学習者へのアンケート調査と日本語教科書の考察をもとに、日本語教育現場の性別語を扱う実態、学習者の性別語への学習意欲などを把握することにする。また、調査結果を総合的に分析し、日本語の教育現場において性別語を扱うべきかどうかについて一案を示したいと思う。

調査を通じて、日本語教材における性別語を取り入れ始める時期や、学習者に求められている性別語の学習方式、半数近くの学習者が今までの日本語授業で扱われた性別語の内容に不足を感じていることなどが明らかになった。

講評　本論文は日本語教育における性別語の現状を考察した。先行研究を把握し、アンケート調査の結果への考察を生かし、それによって得られたオリジナルな成果が簡潔にまとめられていると思われる。

文学 分野

『赤い鳥』における中国像についての研究 ―挿絵を視点として

北京師範大学日本語学部4年　左華芸

『赤い鳥』は、大正時代と昭和初期の代表的な児童文学雑誌である。本稿は浅野法子の「『赤い鳥』における中国像」という論文を踏まえながら、挿絵の視点から、『赤い鳥』に出た中国像をより全面的に整理してまとめ、本誌に反映される中国像を更に立体的に、直観的に表現してみたい。

四章に分け、四つの主な形象を具体的に考察した。第一章は仙人像を考察し、伝統的な道家の仙人像が圧倒的に多く、殆ど肯定的な形象であり、古代中国に対する憧憬を示したことを述べた。第二章は三種類の手品師像を考察し、否定的な形象が多く、大道芸人を代表とする近代中国人の蔑視を示したことを分析した。第三章は泥棒・盗賊像を考察し、登場の回数が多く、そして殆ど凶悪で醜い形象であり、中国像を故意に醜悪化している傾向があることを指摘した。第四章は、挿絵の中によく出る子供像を考察し、子供たちの顔が次第に積極的なものから消極的なものに変わったことを述べた。

講評　日本の童話と童謡の雑誌『赤い鳥』を研究対象に、そこに描かれている中国人像を考察した。研究目的がはっきりしており、内容が論理的に展開され、目的に照合した結論が出されている。

文化 分野

中日両国の大学生の就職観についての比較研究

大連民族大学日本語学部4年　王紫玉

中国の急速な経済発展と共に、中国の大学生の就職観は大きく変わってきた。中日両国は同じアジア文化の下で、就職人口が多い国である。中国と日本の交流が益々多くなった上、両国の文化や理念の違いも現れてきた。近年では、中日両国の雇用事情が次第に深刻になってきた。

中日両国の大学生の就職観についてもっと深く分析して、就職観の形成原因や発展と変化を追求するため、本人はまずアンケートを作成した。アンケートには希望月給や希望の就職地域など十個の問題を設置している。アンケート用紙を中国語と日本語、二つのバージョンを分けて、中国の大学生 100 名と日本の大学生 100 名を対象として、それぞれ中国版、または日本語版のアンケート用紙で調査をした。調査結果を整理、分析した上、両国政府が発表した就業情勢の内容を結びつけて、両国大学生の就職観の共通点と相違点を明らかにした。そして、中日それぞれの就職観の形成原因を分析した。

講評　中日大学生を対象にアンケート調査を行い、就職観に関する共通点と相違点、その原因を明らかにした。小さいテーマだが広がりが持たれ、自分の足で資料を集め、考えながら作り上げている。

Panda杯全日本青年作文コンクール

主催　人民中国雑誌社　中華人民共和国駐日本国大使館　日本科学協会

2014 年から募集を始めた「Panda 杯全日本青年作文コンクール」では、幅広く日本の若者の中国理解を深めるため、日本語での応募が定められている。上位受賞者は 7 日間の中国研修旅行に招待される。訪中の想い出と Panda 杯の意義について受賞者たちが語った。

Panda杯参加者座談会

中島　最初に、皆さんと Panda 杯が出会ったきっかけは何ですか。僕は 2014 年に作文を出したんですが、佳作だったので中国に行けなかった。大使館の授賞式には行ったんですが。そこで科学協会の方と知り合って、中国の方が訪日プログラムで 3 月に日本に来ると聞いて、そのお手伝いにお誘いいただいたんです。その後、2017 年の訪中に参加しました。2017 年はハードで北京、天津、南京、上海と 4 か所だったんですけど、上海は外灘とか景色がきれいで凄いなと思いました。

竹村　僕は皆さんと違って、作文自体応募したことがない。高校の同級生に、中国の学生団体の代表がいて、「中国行きたいな」「ただで行ける方法ないかな」と話してたら教えてくれた。一年間 Panda 杯の運営に関わる代わりに作文で入賞した人たちが行く訪中旅行に同行できる。それならやろうかなと。そんな軽いノリでした。

一番印象に残っていることは中国の大学生と色々な交流ができたこと。お堅い学生交流はいくらでもあると思うけど、Panda 杯のような、中国の学生と一緒に学食で食べたり、思っていることをざっくばらんに話せる機会はなかなかないと思います。

櫻井　きっかけは、2014 年夏に大学生訪中団というものに参加していて、その帰りのバスの中で、今年からこういう作文コンクールをやりますという Panda 杯のチラシが配られました。締め切りの日になって、それを思い出して、2 ～ 3 時間で作文をば一っと書いて出したことです。

印象に残っていることは、中国人民大学に留学していて、2015 年の Panda 杯の皆さんが北京にいらした時に、竹村さんとお酒を飲んだことです（笑）。

小嶋　2017 年に応募しましたが、その時は第二外国語の課題くらいの気持ちで、全然中国にも興味がなく、とりあえず出してみようでした。受賞させていただいて、竹村さんと中島さんが実行委員をされていた訪中旅行に参加しました。そこで中国すごく面白いなと思って、その後に「人民中国」誌創刊 65 周年記念式典が六本木ヒルズであった時に、竹村さんに「実行委員やらせてもらえませんか」とお願いをしました。竹村さんが人民中国雑誌社に伝えて、紹介してくれました。竹村さんに本当に感謝しています。

印象に残っていることは寝台列車です。ぼくの最初の訪中では新幹線一等車には乗ったんですけど、今年は寝台列車に乗って、これもいいなぁと思って。

寝台列車の思い出と言えば、疲れてて自分のベッドで休もうと思っている時に、団長が、ベッドまで遊びに来てくれて、気づいたら寝るのも忘れて色々話せたのも楽しかった。

Panda 杯トロフィー

募集要項	
テーマ等：＠Japan わたしと中国　日本語1600字以内	
応募資格：16～35歳の日本人（日本在住者に限る）	
優秀賞	10名 7日間の中国研修旅行招待
入選	10名 7日間の中国研修旅行招待
佳作	35名 図書券3000円
団体賞	3校

座談会テーマ: 1 Panda杯に参加したきっかけ　2 訪中後の今

勝俣　私は地元が一緒で、知り合いの受賞者がいて、「去年行ってすごく楽しかったから、応募してみれば？」みたいに言われたのがきっかけです。
訪中で心に残ったのは、私も寝台列車なんですが、同行して下さった中国の方に「今日寝台列車ですよね？私すごく楽しみなんです」って言ったら、私はいい意味で言ったのに、「いや、勝俣さん、夜行列車で寝台を取れたこと自体にすごく感謝して下さい」と言われました。「寝台列車なの？」という感じで思っている人もいるとは思うのですけど、「旧正月になると座れない人もいるのに、みなさんは寝れるのだから、感謝してください」と言われて、ああそうなんだ、こういうのが中国の日常なんだとすごく心に残りました。

竹村　寝台列車って、どこからどこ？

小嶋　西安から北京。13 時間くらいですかね。すごくいいですよ。寝台がめっちゃいい。

勝俣　丁度七夕で、花火が見れて。

小嶋　でも洗面台が1車両につき1台しかなくて。トイレもそんなにきれいじゃない。

竹村　行った場所は、西安と北京？

小嶋　西安、秦の時代の兵馬俑とか。

竹村　大学とかは？

小嶋　大学は、北京大学。

勝俣　交流は盛り上がったよね。

小嶋　めっちゃ盛り上がって、終電ぎりぎり。天津とかからわざわざ来て下さっている学生さんが困っちゃってました。人がどんどんいなくなって、でもまだ続くんですよ。

勝俣　そう、みんな帰ろうとしないし。

小嶋　ご飯食べながら、6 時間位話したよね？

勝俣　ご飯食べながら、ずっとしゃべってた。

竹村　中には中国語しゃべれない人とかいるでしょ。何となく伝わるの？

小嶋　人民中国雑誌社の意向で、今回はなるべく日本語がしゃべれない人をたくさんキャスティングしたんです。なので、日本語、中国語、英語が本当にずっと飛び交っていて、例年と違う感じ。

竹村　なんか思い出に残っている話ない？

小嶋　Panda 杯ってスケジュール、タイトじゃないですか？タイトなんですけどみんな若いから、夜 10 時くらいにホテルに着いた後でも出かけて。夜どこか行きました？

勝俣　行きました。タピオカ買いに。

小嶋　みんなタピオカ買ってたよね？

勝俣　お土産買う時間もそんななかった。だからコンビニ行って。

中島　櫻井さん、留学されてますけど、人民大（中国人民大学）選んだのも Panda 杯の訪問がきっかけですか？

櫻井　人民大が選択肢に入った直接の理由のひとつではあります。交換留学先の大学の中で、実際に足を運んだことがあるので、何となく勝手

竹村幸太郎
（自動車メーカー勤務）
2015 年、2016 年
Panda 杯運営実行委員となり、
2015 年、2017 年に訪中。

もわかるし、いいかなと思いました。

中島　実際行ったことないところにいきなり 1 年とか行くのは不安だし、すごくいい機会ですよね？

竹村　大学は、その時何か所か行かれたんですか？

櫻井　訪中の時は、人民大だけでした。

中島　あちらのスタッフの方、人民大出身の方が多いんですよね。

竹村　人民大って、実際に通ってみてどんな感じなんですか?ぼくたちって一日くらいしか行っていないから。

櫻井　訪中で連れて行って貰った食堂にもう一度行ってみたいと思って、行ったんですが、なんか取り壊されていて、ブロック塀だけで、無残な姿でした。初日からあーと思って……。
でも北京大学、清華大学と比べてすごくキャンパスが小さいので、歩いてどこにでも行けます。自転車なくてもいいんで、それは便利でしたけど。

竹村　授業とかどう？

櫻井　基本的に語学中心で、中国語専攻なんで、文学の授業出て、古典、詩をみんなで暗唱したり、単位を取ることを目的にはしていなかったんで、毛沢東思想の授業とか出たりしました。みんな内職しているんだーって、びっくり。先生の授業早く終わらせたいから拍手始めちゃうとか、強硬手段で終わらせようとしてました。

中島　留学中は旅行とかで西安とか行かれました？

櫻井　西安は、多分一番行った町ですね。近いんです。西安のご飯がすごく美味しくて。ご飯にはまってしまって。

勝俣　何が美味しかった？

櫻井　羊肉泡饃（ヤンローパオモー）。ナンを自分でちぎって入れるんです。

勝俣　あれって、自分でちぎるんですか？

櫻井　ちぎった形で出て来る時もある

勝俣　あー、ハンバーガーみたいなやつですか？

櫻井　それは肉夾饃（ロージャーモー）、肉夾饃はちぎらない。羊肉泡饃はちぎる。

勝俣　えー、食べてみたい。

竹村　中島さんが美味しいと思ったものは何ですか？

中島　個人的に好きだったのは、なんだろう、屋台とかに結構はまってて、普通の炒飯も美味しいし、お菓子だとさつまいもに温めた水飴をかけて食べるみたいな。早く食べないとどんどん固まっちゃう。タピオカも中国にいる間は結構飲んでて、帰ってきてからは全然飲んでません。

中島　竹村さんはどこが印象に残っています？

竹村　上海の何でしたっけ、森ビルが作った上海環球金融中心。

小嶋　あー、100 階建てのビル？

竹村　そう。僕、もともと小学校 3 年生くらいから中学 1 年生まで、中国にいたんです。全然覚えてないんですけど、そのころに比べて、かなり発展したなという印象はありますね。日本じゃ見ないような高いビルがいっぱいある。

小嶋　四川省とか結構印象に残っていて、パンダがいっぱい見れるところに行きました。

勝俣　食べ物どうでした？

竹村　辛い？

小嶋　辛い、でも食べられない程ではない。夜ごはん、めちゃめちゃお菓子出てきませんでした？ 四川の人は、夜お菓子食べるんだって。お菓子ばっかり出てきました。

竹村　パンダの保護施設ではパンダに触れるんですか？

中島　パンダ基地でしたっけ？名前。小さいパンダから大きいパンダまで、全部パンダみたいなところでしょう。羨ましいな。

勝俣　触れはしません

櫻井　お金払うと、出来るんですよね。

小嶋　1 匹なら可愛いじゃないですか？でも 100 匹くらいいると、だんだん有難みがなくなってきちゃって。

小嶋　パンダの他にどこに行きましたっけ？

中島　唐代の詩人杜甫の家とか、三国志関連みたいなところ。

小嶋　ものすごいスケジュールでしたよね？朝めちゃくちゃ早くて。帰りすごく遅くて。ガイドさんが一生懸命組んでくれてると思うんですけど、夜 10 時くらいに夕食が終わったのに、ガイドさんが「さあ、散歩しましょう。」って。

竹村　第 1 回からそうでした？ 2014 年とかも。

櫻井　2014 年は、確か、北京に行って、南京にいって、北京に戻るスケジュールなんですが、私 たちが勝手にハードスケジュールにしているだけで（笑）。夜遅くまで起きていたという ……。
そこまでじゃなかったと思いますね。

小嶋　第 1 回目の時って、10 人なんですよね？

櫻井　小規模で、一緒にいたメンバーもキャラクターが濃いので、みんなの話を聞いている だけで楽しい。

櫻井　特に大きなトラブルがあったという記憶とかはなくって、ただ本当に現地の人の交流もそうなんですけど、一緒にいたメンバーも濃いので、みんなの話を聞いているだけで楽しい。

小嶋　僕らのメンバーは、毎年日本科学協会の日中若者討論会にも来てくれて、これが Panda 杯の人達の再会、同窓会になっているんですよ。

竹村　訪中で中国好きになった人多いのかな？

小嶋　確かに。竹村さんは今、会社で中国との交流経験が役立ったこととかありますか？

竹村　あるある。うちは中国法人もあるし、取引先にも、少しは中国の人とかいるので。仕事は、とりあえず下手な英語で話してても、たまに中国語しゃべると仲良くなる。なんでしゃべれんだ？ちょっと住んでたからとなる。

小嶋　竹村さんとかは、習近平主席が手紙の返事をくれたのは知ってますか？

竹村　あー、ちらっと。内容はあまり知らないんだ。

中島　Panda 杯にボランティアで参加し、北京と四川に行って、現地の方、学生の方に色々交 流させていただいてありがとうございます、みたいな内容で習近平主席に手紙を書いたんです。まさか返事が来ると思っていないから、びっくりという感じですね。

小嶋　中国ではすごいニュースになったんですよね。

櫻井　日本では NHK で。Youtube 見ていても、大地さん出ててびっくりした。

小嶋　そう、人民中国雑誌社が特集組んでましたよ、中島さんの。

竹村　どうやって手紙送ったんですか？

中島　人民中国雑誌社の方を通して。

小嶋　でも、中島さんに返事が来たんですよ。人民中国雑誌社じゃなくて。

中島　なんでだろう。いま中国と関わりのない事が

櫻井毬子
（慶応大学修士 2 年）
2014 年優秀賞を受賞し、訪中。

小嶋心
（東京学芸大学教育学部 3 年）
2017 年優秀賞を受賞し、訪中。
2018 年、2019 年 Panda 杯運営実行委員として訪中。

中島大地
（児童書関連出版社勤務）
2014 年、2015 年佳作受賞
2017 年、2018 年 Panda 杯
運営実行委員として訪中。

日本でどんどん少なくなってると思うんです。仕事にしても、メーカーでも出版でも、中国のほうに向いている。

竹村　この作文コンクールもあんまり肩ひじ張らずに、「私と中国」ってどうだろうみたいに、参加者の皆さんもあんまり構えず、どんどん応募して欲しいですね

小嶋　確かにそうですね。

竹村　受賞者には、中国のドラマが良かったみたいなことで書いている人もいるんで。普通に暮らしていて、何かしら中国と関わりあるじゃないですか？まわりに中国の人もいっぱいいるし。どんどん応募してもらえたらなあというのが、今回僕が用意してきた結論なんですけど。

勝俣　さすが。

竹村　冗談で言っただけなんで。まとめとして「Panda 杯」って何ですか？ひと言で言って。僕は、日本にもこんなに中国のことを色々考える人がいるんだなあっていうのをすごく感じました。

櫻井　一言で言うと、Panda 杯は青春で、ここから始まった人脈を大切にしてきた結果、大学生活、大学院生活、今に繋がっているな と思ってます。青春の一コマです。

小嶋　少し大人になれるプログラムと思っています。行く前は中国だし嫌だなみたいな、自分の感情をただただ周りにぶつけている。でも参加した後は、日中友好を自分たちがどう進めればいいのかと真剣に考えるようになっていて、自分が成長していけるのが Panda 杯です。

勝俣　自分に新しい課題を課してくれたなと思い ました。授賞式のスピーチで「日本にはまだまだ中国に対してステレオタイプなイメー ジを持っている方がいる。それを変えられるのが若い君たちだ」と言われ、訪中から日本に帰って、自分には何ができるかなと考えている。

中島　中国の色々なところに行かせていただいて、現地の方々の、色々なフィルターを通していろいろな事を知ることができた。それがすごく温かった。

东京
日本国东京都

中岛大地先生：

你的来信收到了。得知你长期学习中文并研究中国文学，通过积极参加征文比赛和访华交流活动，增加了对中国的认识、加深了同中国朋友的感情，我感到很高兴。

中日是一衣带水的近邻，两国友好的根基在民间。两国人民友好的未来寄望于青年一代。希望中日两国青年加强交流互鉴、增进相互理解、培育长久友谊。为开创两国关系更加美好的明天作出积极贡献。希望你更加积极地参与中日友好事业。

中华人民共和国主席

2019年6月25日于北京

習近平国家主席は、G20 大阪サミット出席を間近に控えた2019年6月25日、
日中友好への願いや日中友好事業への抱負を綴ったPanda杯受賞 中島大地さんからの手紙に返信を送った。

中国 程永華駐日大使が後藤翔さんと山本綾子さんに優秀賞を授与（2016年）

勝俣友加里
（女子美術大学芸術学部
アートデザイン表現学科
ファッションテキスタイル
領域 3 年）
2019 年優秀賞を受賞し、訪中。

Panda杯優秀賞（2014～2018年）

	受賞者	所属	タイトル
2014年(10名)	櫻井毬子	慶應義塾大学	わたしの目に映る中国
	平原紀子	株式会社時事通信社	「見えない脅威」と「見える友好」
	石丸大輝	日本国際協力機構（JICA）勤務予定	わたしの目に映る中国　ー衣帯水 - You 縁Me -
	難波千穂美	北九州市立大学	暖かい中国
	倉澤正樹	東京大学	私にとっての中国　ー信じて古を好む
	宇佐美希	東京外国語大学	日中の懸け橋をめざして
	池辺菜々子	亜細亜大学	私の中国色
	佐藤瑞貴	聖心女子大学	日中関係改善のための提案
	松山茜	明治大学	わたしの目に映る中国
	山根芽依	同志社高等学校	上海ー思い出の匂い
2015年(10名)	宮永幸則	滋賀県立大学大学院	日中農業活性化の架け橋となる
	露木春那	中国美術学院	文字でつながる中国とわたし
	一木有海	慶應義塾大学	心をつなぐハガキ
	安倍佑美	公益財団法人ツーリズムおおいた	通じ合う心
	谷古宇健仁	早稲田大学	ふつうの日本人から見た「中国」
	境晶子	大阪大学	朋友的朋友、就是朋友。
	皆川真祐子	慶應義塾大学	卒業文集より
	讃井知	筑波大学大学院	隣の席のあなたと
	鈴木洋晶	東京外国語大学	一筋の日の光と小さな歩み
	丹波江里佳	埼玉県立伊奈学園総合高等学校	蘭州の学生たちと私の三年間
2016年(10名)	後藤翔	熊本大学	ティーシャツと短パンの勇者
	山本綾子	一橋大学大学院	中華帽子から始まった　4 歳児の夢
	山口真弓	株式会社ユーグレナ	“ 聖女”
	井ノ下千夏	安田女子大学	書で結ぶ日本と中国
	角南沙己	筑波大学附属高等学校	希望の言葉ー「辛苦了」
	佐野桃子	東京学芸大学	わたしの「ものさし」で見た中国
	大久保弘樹	宮崎公立大学	人生で初めて出会った中国人
	門馬涼	仙台育英学園高等学校	想いは国境を越えて
	北條久美	創価高等学校	赤い輪
	濱田麻衣	大妻女子大学	わたしが 発信する“中国”
2017年(10名)	小嶋心	東京学芸大学	忘れられない歌
	山本陽子	和歌山大学	良きライバル
	鈴木あかね	都留文科大学	あの村から継ぐ「平和のバトン」
	新保清美	創価大学	となりの姐姐
	岩瀬正美	神奈川県立保健福祉大学	私は何人なのだろう。
	藤原佳代子	熊本空港エクセレント・ホテル	わたしは中国で生き返る
	中原隆雅	さいたま地方検察庁	私と中国 2017
	面出望	大阪大学	孤独に直面して
	田中歩佳	東京成徳大学	見えなかった透明の壁
	山本晟太	大阪大学	町へ出よう、村へ行こうー多様性の国　中国
2018年(10名)	本間雅恵	日本女子大学	届いた声
	添田天駿	福岡県立修猷館高等学校	夢の原点
	後藤翔	熊本大学	未知とものさし
	宮地大輝	伊藤忠商事株式会社	シャレから始まる私と中国
	今村奈津子	獨協大学	日本人という仮面
	中塚咲希	法政大学	心のバリアフリー
	井内英人	関東国際高等学校	あの時、話しかけてくれてありがとう
	玉川直美	創価大学	中国語がつなげてくれた一期一会
	山本佳代	愛知国際学院	生まれて来る子供へー新たな日中関係を目指して
	齋藤もも	敦賀気比高等学校	私にとっての藤野先生

Panda 杯訪中先都市

2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
北京、南京	北京、曲阜	北京、揚州、上海	北京、天津、南京、上海	北京、成都

Panda杯訪中プログラム

2014

2015

2016

2017

2018

笹川杯訪日プログラム

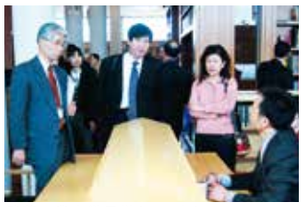
日中双方の交流を促進するため、多くの関係者を日本へ招聘してきた。
図書寄贈では、寄贈の窓口となる図書館館長や担当者を招聘し、図書館の視察、セミナー、フォーラム等を実施した。また日本知識大会や日本に関する作文コンクール、日本研究論文コンクール等においては、成績優秀者等を日本に招き、文化体験や訪問見学、日本の若者達との討論会等を実施した。
これら日本招聘を通して、社会・歴史・文化・自然など多角的な日本理解の促進を図るとともに、日本の人々にとっても異文化交流の機会を提供している。

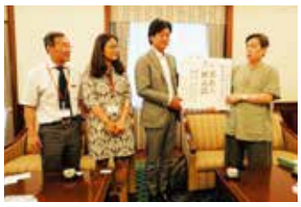
図書館関係者の招聘

図書館関係者招聘実施概要

年度		2001	2002	2004	2006	2010
実施概要	招聘日	2001年9月24日～10月3日	2002年10月23日～10月31日	2005年1月17日～1月24日	2006年12月4日～12月11日	2011年2月15日～2月22日
	参加者	11名	12名	17名	27名	26名
	訪問先	東京・神奈川・京都・大阪	東京・神奈川・京都・大阪	東京・神奈川・山梨・千葉	東京・神奈川・沖縄・京都・奈良・大阪	東京・埼玉・沖縄・兵庫・
	セミナーテーマ	日中図書館の情報サービス	図書館情報リテラシー	日本の大学図書館の現状		日本の大学図書館の

「日中図書館情報サービスセミナー」(2001年)


武蔵工業大学見学(2010年)


図書提供元の講談社訪問(2015年)

	2015
	2015年6月28日〜7月5日
	35名
京都・大阪	東京・宮城・北海道
現状と新たな発見	大学図書館の変遷と発展

明治大学図書館見学（2015年）

日中大学図書館フォーラム

日中大学図書館フォーラム 2015

6月30日、日中の大学図書館関係者の情報交換の場として、「日中大学図書館フォーラム 2015」を東京工業大学附属図書館と共催した。

オープンな形で開催されたフォーラムには、一般参加者を含め約80名の図書館関係者が参加した。

日中の大学図書館を代表する各3名の講師が、それぞれ「大学図書館の変遷と発展」をテーマに、大学図書館の現状・今後の課題・展望、ラーニング・コモンズへの取組みなどを発表した。

続く質疑応答でも活発な情報交換が行われ、相手国の図書館事情に対する認識が深まったとの声が聞かれた。

日中大学図書館フォーラム

知識大会・作文コンクール成績優秀者の招聘

人を通じて日本を知る

討論会

日中討論会テーマと参加人数

2013年度	日中の環境問題 ●日本人25人 ●中国人28人 ※2013年は沖縄でも同テーマで討論会開催 ●日本人27人
2014年度	話して合点!！ ー日中相互 ●日本人24人 ●中国人19人
2016年度	日中関係の将来像 ●日本人24人 ●中国人26人
2017年度	知りたい魅力 伝えたい魅力 ーお互いがもっと仲良くなるためには 日中再発見 ●日本人23人 ●中国人29人
2018年度	少子化現象について ー将来を担う私たちができること ●日本人50人 ●中国人30人

日中若者討論会（2013年）

両国の若者が共に関心を寄せる環境問題（中日青年討論会）

中国青年報社
国際部
記者　張蕾

日本常駐だった頃、日本人から一番よく聞かれた質問は、「日本のどこがよいと思うか」でした。

日本人は他者からどう見えるのかを気にしているようです。「空気」と口にすると、質問の主は目を丸くして聞き返してきました。少ししてから、かつての大気汚染の記憶を辿ったり、スモッグに覆われた風景に思いを至らせているようでした。

7 月 26 日午前、日本科学協会の主催する「中日青年討論会」が東京の日本財団ビルで開かれました。討論会のテーマは環境問題です。

基調講演で東京財団の染野憲治さんは、中日には 20 年あまりの環境協力の歴史があることに言及し、その後 1968 年の東京の写真を示しました。黒々とした空気の中で建物は輪郭しか見えず、現在のスモッグ発生時の北京とかなり似た状況でした。日本は過去のある時期、経済の発展だけに関心を持ち、環境保護をないがしろにしたため、深刻な公害を招きました。それが今や東京の空気は大幅に改善されています。

日本の空気の質は優れた自然条件によるものと思っていましたが、人的要因のほうが主となっているということをはっきりと理解することができました。

中日 54 名が参加した討論会の各グループの発表内容をまとめると、環境問題について中国側の参加者が共通して気にしているのは、自国の水質汚染、土壌汚染、PM2.5 指数、森林面積の減少が健康に及ぼす影響で、日本側では放射能、資源の再利用、地球温暖化といった世界規模の問題により関心が寄せられていました。

これらの問題はどのように解決すべきでしょうか。共通してみられた考えは、環境関連の立法強化、地方政府 / 公共団体の理念を経済重視から環境との両立にシフトさせること、企業の社会的責任感を涵養すること、環境意識の普及、青少年

知識大会・作文コンクール成績優秀者招聘実施概要

年度	招聘期間	参加者	訪問先
2004	2005年1月17日～1月24日	7名	東京、神奈川、山梨、千葉
2005	2006年1月19日～1月28日	12名	東京、浜名湖、蒲郡、京都、大阪
2006	2007年2月 8日～2月15日	12名	東京、沖縄、京都、奈良、大阪
2007	2008年1月24日～1月31日	26名	東京、沖縄、京都、奈良、大阪
2008	2009年2月 1日～2月8日	30名	東京、沖縄、兵庫、京都、大阪
2009	2010年1月24日～1月31日	29名	東京、広島、京都、大阪
2010	2011年2月15日～2月22日	11名	東京、埼玉、沖縄、兵庫、京都、大阪
2010	2011年7月19日～7月26日	22名	東京、沖縄、京都、大阪

年度	招聘期間	参加者	訪問先
2011	2012年2月1日～2月8日	27名	東京、沖縄、京都、大阪
2013	2013年7月24日～7月31日	28名	東京、沖縄、京都、大阪
2014	2015年2月26日～3月5日	19名	東京、沖縄、京都、大阪
2015	2016年3月1日～3月8日	33名	東京、静岡、滋賀、京都、大阪
2016	2017年2月22日～3月7日	26名	東京、沖縄、京都、大阪
2017	2018年2月28日～3月7日	29名	東京、沖縄、京都、大阪
2018	2019年2月19日～2月26日	35名	東京、沖縄、滋賀、京都、大阪

日中若者討論会（2013年）

日中若者討論会（2013年）

に対する環境意識の強化などでした。

環境分野で中日両国が協力する方法についての認識は、日本には深刻な公害の経験があり、近年には放射性物質の漏洩事故があったため、経験と先進的な技術を中国に提供できるというものでした。

沖縄訪問

7 月 27 日の昼ごろ、沖縄本島の那覇空港に着陸。空港内では年間を通して蘭が飾られており、訪れる人々を歓迎しています。

まず古代琉球王国の皇宮の首里城を見学。中国とあまりに深い縁を持つ場所です。黒い肌、大きい目で、中国人と容貌が似ている沖縄の人が、中国人に示した友好と親切さには、訪日団の一同が感動しました。沖縄国際大学、琉球大学の学生、中国語愛好者と訪日団の交流会を主催した、中国教育文化協会の陸丹鳳先生の紹介によると、沖縄市教育委員会の仲松齢子会長は、去年から小学校に中国語の課程を取り入れ、市では、1 人あたり 6 万円（約 3800 元）を補助し、2 週間の短期中国留学を奨励することが決定されたそうです。

訪日団の沖縄滞在で意外な喜びとなったのは、豊見城市でのドラゴンボートレースに参加できたことです。団員達は不慣れな操作でドラゴンボートを漕ぎながら、沖縄の青い海と空を満喫し、チーム名に謳う「追い風」や「猛竜」といった覇気はどこへやらの陶酔ぶりでした。

美しい沖縄のビーチで行われた現地の若者との焼き肉パーティーも忘れられないひとときとなりました。沖縄大学の王志英先生が中国語を学ぶ学生 30 数名を連れていらしたのです。日本の学生は、中国の団員のすばらしい日本語能力とコミュニケーション能力に対して心から賛嘆し、今後いっそう真剣に中国語を学んでいきたいと話していました。（「中国青年報」2013 年 8 月号掲載）

文化を通して日本を知る

どっちの料理ショー（2013年）

広島風お好み焼き（2010年）

巻き寿司（2017年）

そば打ち（2016年）

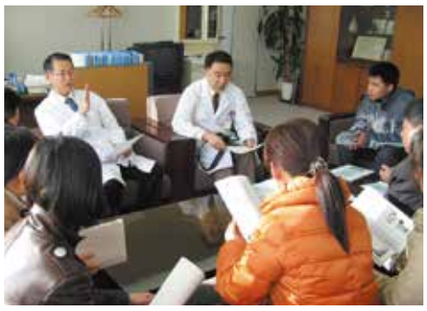
イントロクイズ（2013年）

座禅（2019年）

生け花（2006年）

針江生水の郷（2019年）

大阪大学医学部附属病院（2006年）



沖縄ハーリー大会（2013年）

ひめゆり平和祈念資料館（2011年）

モンスターカフェ（2016年）

ぶくぶく茶（2018年）

琉球村（2008年）

大江戸温泉物語（2013年）

銀座（2011年）

伊丹市歓迎会（2009年）

共催・協賛・後援

笹川杯全国大学日本知識大会（2004～）

共催：黒竜江大学（2004－2011）哈爾濱市人民政府外事僑務弁公室（2005）南京大学（2005－2011、2013）
黒竜江省人民対外友好協会（2006、2009）寧波大学（2006）黒竜江省人民政府（2007）浙江工商大学（2007）浙江省対外友好協会（2007）
長春師範学院（2007）佳木斯大学（2007）大連外国語学院（2008）江蘇省国際文化交流中心（2008、2009、2011）
揚州市人民対外友好協会（2008）蘇州大学（2009）貴州大学（2010、2011）貴州省人民対外友好協会（2010）東華大学（2010）吉林大学（2010、2015）
中国人民大学（2013）北京大学（2014、2018）武漢大学（2016）上海交通大学図書館（2017）

協賛：全日本空輸株式会社（ＡＮＡ）（2004～）黒竜江東方学院（2004）林建忠暁陽慈善基金会（2005）浙江省婦女国際旅行社有限公司（2007）
Ｊ・TEST中国事務局（2007－2010、2014）人民中国雑誌社（2008～）カシオ（上海）貿易有限公司（2008、2010、2011、2013）
上海海文音像出版社（2010）珠海宜新軟件科学技術有限公司（2011）社会科学文献出版社（2013～）中国教育図書進出口有限公司（2013、2014、2017）
大新出版集団（2013）外語教学与研究出版社（2013）清華大学出版社（2013）高等教育出版社（2013）株式会社講談社（2014）
講談社（北京）文化有限公司（2014）株式会社手塚プロダクション（2014）加藤玉枝（2014～）上海外語教育出版社（2015）

後援：黒竜江省人民対外友好協会（2004）黒竜江省教育庁（2007）人民中国雑誌社（2007）グリーンウェーソーラー・テク（上海）有限公司（2008）
江蘇省国際文化交流中心（2010）在上海日本国総領事館（2010）中国教育部高等学校外国語言文学類専業教学指導委員会日語専業教学指導分委員会（2010～）
中国青年報社（2010～）中国高校傳媒聯盟（2010～）中国国際放送局（CRI）（2011－2017）中国高校国際交流社団聯誼会（2013～）
中国日本語教学研究会（2013、2015－2017）（独法）国際交流基金北京日本文化中心（2013－2016）在中国日本国大使館（2013、2014、2016）
東北亜国際語言文化研究基地（2015）長春中日交流之窗（2015）人民網日本株式会社（2017）国際贈書中心（2017）
東方網（2017）中国国際放送局（CRI）日本語部（2018）

笹川杯感知日本作文コンクール中国語版（2008～2012）

共催：中国青年報社（2008－2012）人民中国雑誌社（2008－2012）

協賛：全日本空輸株式会社（ＡＮＡ）（2008－2012）

後援：中華全国青年聯合会（2008－2012）中日友好協会（2008－2012）在中国日本国大使館（2008－2012）中国高校傳媒聯盟（2009－2012）

笹川杯感知日本作文コンクール日本語版（2008～2018）

共催：人民中国雑誌社（2008－2018）中国青年報社（2008－2012）

協賛：全日本空輸株式会社（ＡＮＡ）（2008－2018）佳能（中国）有限公司（2009、2012）松下（中国）有限公司（2010）
大新出版集団（2011、2012、2013）カシオ（上海）貿易有限公司（2012）珠海宜新軟件有限公司（2014）北京世橋国際文化交流中心（2016）

後援：在中国日本国大使館（2008－2014、2017、2018）中華全国青年聯合会（2008－2014）中日友好協会（2009－2018）
中国国際放送局（CRI）（2009－2010、2014－2018）中国国際放送局（CRI）日本語部（2011－2013）人民網（2012－2018）
中国高校国際交流社団聯誼会（2014）中国高校傳媒聯盟（2014）中国青年報社（2016－2018）

協力：滬江網（2009－2018）大連中日之窗（2009）中華網（2010－2018）中国網（2010－2018）網易（2010）貫通日本（2010、2012－2018）
中日之窗（2010－2013、2016－2018）大連中日文化交流中心（2011）佳禾日語網（2011－2014）和陽日語（2012）

笹川杯本を味わい日本を知る作文コンクール（2016～）

共催：上海交通大学図書館（2016～）

協賛：全日本空輸株式会社（ＡＮＡ）（2016～）人民中国雑誌社（2016－2018）中国教育図書進出口有限公司（2016～）
上海外語教育出版社（2016～）

後援：人民網日本株式会社（2016～）中国国際放送局（CRI）東北亜中亜地区広播中心（2016、2017）
中国青年報社国際部（2016－2018）中国高校傳媒聯盟（2016－2018）東方網日文版（2016～）国際贈書中心（2016～）
中国国際放送局（CRI）日本語部（2018～）

笹川杯日本研究論文コンクール（2018～）

共催：中国教育部高等学校外国語言文学類専業教学指導委員会日語専業教学指導分委員会（2018～）中国日語教学研究会（2018～）吉林大学（2018～）

協賛：日語学習与研究雑誌社（2018～）外語教学与研究出版社（2018～）上海外語教育出版社（2018～）
カシオ（中国）貿易有限公司（2018～）九州外国語学院（2018～）（独法）国際交流基金（2018～）

Panda 杯全日本青年作文コンクール（2014～）

共催：人民中国雑誌社（2014～）中華人民共和国駐日本国大使館（2014～）

後援：中国国際出版集団（2014～）中日友好協会（2014～）（公社）日中友好協会（2014～）（公財）日中友好会館（2018～）

協力団体：中国文化センター（2014～）工学院大学孔子学院（2014－2017）中国教育文化協会（2014－2017）
（公益）国際文化フォーラム（2014～）中国駐東京観光代表処（2014～）日中学生交流連盟（2014～）
日本財団学生ボランティアセンター（2014～）日本「五星奨」中国語教育推進会（2014～）認定NPO法人東京都日中友好協会（2014～）
日中青年交流協会（2015～）日中学院（2015～）（公財）日中校友会館（2016－2017）（一社）日中協会（2016～）
HSK日本実施委員会（2019）Panda 杯運営実行委員会（運営協力団体）（2015～）

協力メディア：人民網（2014～）中国網（チャイナネット）（2014～）中国国際放送局（CRI）日本語部（2014）
中華網（china.com）（2014～）毎日新聞社（2014～）神奈川新聞社（2014－2016）テレビ神奈川（2014－2015）SBIサーチナ（2014）
中国国際放送局（CRI）（2015～）東方網（2015～）新華網（2017～）中国青年報社（2017～）
CCTV大富（2017～）東方新報（2017～）

【公益財団法人　日本科学協会】

1924 年、科学者相互の協力と科学知識の普及により国利民福を図ることを目的に、国内の学者 200 余名の理事及び評議員により、財団法人科学知識普及会として設立。会誌『科学知識』、『科学年鑑』を編纂・刊行。1944 年、日本科学協会と合併し財団法人日本科学協会と改称。

その後、科学書籍発行等の活動のみ継続していた時期もあったが、1975 年、日本財団の支援の下、本格的な事業活動を再開。2012 年 4 月、公益財団法人に移行。2019 年 6 月、創立 95 周年を迎えた。

科学研究を奨励し、その成果を広範に伝え、科学教育の振興に寄与し、さらに教育・研究図書等の提供並びに学術交流等を行い、国際相互理解を促進することによって、文化の発展と人材の育成を通じ、日本と世界の安定的な発展に寄与することを目的としている。

現在、科学を担う人材育成のための「笹川科学研究助成事業」、グローバル人材育成のための「日中未来共創プロジェクト」、科学知識の普及・啓発のための「生命科学テキストプロジェクト」や「サイエンスメンタープログラム」等の事業を実施している。

科学協会HPはこちら→

「日中未来共創プロジェクト20YEARS」
編集担当
顧文君　（公財）日本科学協会　常務理事
宮内孝子　（公財）日本科学協会　国際交流チーム　サブマネージャー
阿羅美奈子（公財）日本科学協会　国際交流チーム
堀江みどり（公財）日本科学協会　国際交流チーム

協力「日中未来共創プロジェクト」アドバイザー　孔暁霞
編集・制作プロデューサー　株式会社ブックプラント　内藤裕之
表紙・本文デザイン　COMEX（米澤正俊）

2020年6月 発行
発行　公益財団法人　日本科学協会
〒107-0052　東京都港区赤坂1-2-2　日本財団ビル5F
URL https://www.jss.or.jp/

1999 年に中国の大学への図書寄贈から始まったこのプロジェクトは、
現在、日本知識大会や作文コンクール、研究論文コンクール、さらには日本招聘、
中国訪問プログラムと多角的な日中双方向の交流事業へと発展して参りました。

プロジェクト開始から20年、この間、プロジェクトは無論、日本と中国、
また両国を取り巻く国際情勢も大きく変化してきました。一方、日本と中国とは永遠の隣国であり、
良好な関係の維持が両国のみならず世界の平和と発展のために不可欠ということは、
今後も変わらないことと考えております。

現在、日中間においては、新たな時代に相応しい緊密な協力関係の構築が期待されていますが、
こうした関係構築の基礎となるのが人材育成であり、このプロジェクトの存在意義もここにあると考えております。

今後も変化し続ける国際社会の中にあって、このプロジェクトにおいては、
“知識から理解へ”、“理解から共創へ” をキーワードに多様な交流事業を継続し、
両国の未来を共に創ることができる環境の整備、人材の育成に寄与して参りたいと考えています。